

平成 20 年度 青葉区区民意識調査

調査結果 報告書

【概要版】

平成 20 年 9 月

横浜市 青葉区

まえがき

「青葉区区民意識調査」は、青葉区民の生活について行動や意識をうかがい、今後の青葉区政の運営や施策立案の基礎資料として活用することを目的に実施しています。

青葉区は、東京など市外からの転入者も多く、若い子育て世代が多い、活力あふれる区です。また、本年4月に厚生労働省から発表された「平成17年市区町村生命表」によれば、青葉区の男性の平均寿命は81.7歳で長寿全国1位、女性の平均寿命は88.0歳で全国7位となりました。

このように、様々な顔をもつこの青葉区においては、市政や区政に対する要望は多様化し、求められる水準も高くなっていますので、区民ニーズを的確に把握し、満足度の高い区民サービスを提供していくことがますます重要になっています。

本年は、昨年度調査から設問を一部変更し、新たに喫煙に関する施策の認知度、青葉区の長寿の要因及び防災に対する意識等を調査しました。

昨年の「横浜市市民意識調査」において、喫煙や防災に関して全市的に調査が行われていましたが、青葉区のサンプル数が200～300人前後と少なかったことから、より詳細な意識等を把握するために今回の調査項目に加えました。

また、長寿の要因について当事者である青葉区民の意識を調査し、分析の一助にするために今回の調査項目に加えました。

なお、現在の青葉区民の意識傾向を示すデータを得るため、いくつかの設問においては、昨年度と同様の調査を行っています（設問形式を一部変更したため、単純な経年変化が難しいものもあります）。

最後になりましたが、調査にご協力いただきました多くの区民の皆さまに心より厚くお礼申し上げます。

平成20年9月

横浜市青葉区

*** 目 次 ***

1	調査概要.....	3
2	回答者の属性.....	3
3	調査結果	
1	青葉区の生活環境について.....	7
2	環境・自然について.....	11
3	福祉・健康問題について.....	16
4	防災について.....	23
5	区政サービスについて.....	27
6	横浜市開港 150 周年、青葉区制 15 周年について.....	30
7	青葉区への定住意向などについて.....	33
8	自由意見.....	35

1 調査概要

調査目的：青葉区民の日常生活における行動や意識を調査し、今後の区政運営の参考とすることを目的とする。

調査対象：青葉区に居住する16歳以上の男女3,000人（無作為抽出）

調査方法：郵送によるアンケート方式

調査期間：平成20年6月～7月

有効回収数：1,746件（58.2%）

報告書を見る際の注意点

- ① 比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出している。
そのため、百分率の合計が100%にならないことがある。
- ② 質問文の中に、複数回答が可能な質問があるが、その場合、回答率の合計は100%を上回る。
- ③ 図中に示した「N=〇〇」とは、その質問に対しての「回答者数」を意味する。
- ④ クロス集計表の分析軸は、「無回答」を表記していないため、合計が全体の基数と一致しない場合がある。

2 回答者の属性

▶ 年齢

30代～60代は、ほぼ均等に分散している。

「41～50歳」が19.8%で最も高く、次いで「31～40歳」が18.6%、「51～60歳」が18.0%となっている。10歳刻みで見ると、30代～60代はほぼ均等に分散しているが、71歳以上は12.6%とやや低くなっており、20歳以下は4.5%で最も低い。

<10歳刻み>

（上段：件数 下段：%）

全体	16～20歳	21～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳	71歳以上	無回答
1,746	78	178	324	346	314	263	220	23
100.0	4.5	10.2	18.6	19.8	18.0	15.1	12.6	1.3

▶ 性別

女性の割合が約14ポイント高い。

「女性」が56.1%で、「男性」の41.8%を10ポイント以上上回っている。

▶ 居住期間

30年未満が大半を占めている。

「20年以上～30年未満」が22.9%で最も高く、次いで「5年以上～10年未満」が16.3%、「1年

以上～5年未満」が 15.3%となっており、30年未満が大半を占めている。

■ 青葉区居住以前の居住地

「東京 23 区」が最も高く、約 4 分の 1 を占める。

(上段：件数 下段：%)

全 体	青 葉 区	生 ま れ て か ら ず つ と	青 葉 区 以 外 の 横 浜 市	川 崎 市	神 奈 川 県 内	横 浜 市、 川 崎 市 を 除 く	町 田 市	東 京 23 区	そ の 他	無 回 答
1,746	108	282	276	116	43	441	454	26		
100.0	6.2	16.2	15.8	6.6	2.5	25.3	26.0	1.5		

「その他」の内容	件数	「その他」の内容	件数	「その他」の内容	件数
23区及び町田市以外の東京都	40	東北地方	13	九州地方	17
千葉県	48	信越・北陸	12	海外	37
埼玉県	27	大阪府	44	その他	5
その他の関東地方(山梨県含む)	13	大阪府以外の東海・近畿地方	87	内容記入なし	88
北海道	10	中国・四国地方	13	合計	454

「東京 23 区」が 25.3%で最も高く、次いで「青葉区以外の横浜市」が 16.2%、「川崎市」が 15.8%となっている。「その他」も約 4 人に 1 人の割合を占めている。

■ 住居形態

『持家』が7割と大半を占め、特に「持家（一戸建て）」が半数近くとなっている。

「持家（一戸建て）」が 47.6%で半数近くを占めている。次いで「借家（マンション・共同住宅、社宅、公務員住宅、寮）」(24.5%)と「持家（マンション・共同住宅）」(24.0%)がほぼ並んでいる。「持家（一戸建て）」と「持家（マンション・共同住宅）」を合わせた『持家』は7割を超えている。

■ 職業

「正社員、正職員」が約3割、「家事専業（主夫・主婦）」は約4人に1人の割合。

「正社員、正職員」が 31.0%で最も高く、次いで「家事専業（主夫・主婦）」が 24.6%となっている。

■ 通勤、通学や日常生活で最も利用する駅

「青葉台駅」が約3割で、最も高い。

「青葉台駅」が 28.2%で最も高く、次いで「あざみ野駅（地下鉄含む）」が 19.9%、「たまプラーザ駅」が 15.3%の順となっている。

▶ 家族形態

「親と子（2世代）」が6割弱。「親と子と孫（3世代）」は1割よりも少ない。

「親と子（2世代）」が58.1%で6割近くを占めている。次いで「夫婦だけ」が約4人に1人の割合で、「親と子と孫（3世代）」は1割より少ない7.4%となっている。

▶ 共働きか否か

共働きは約3割。

「はい（共働き）」が29.7%と、約3割を占めている。

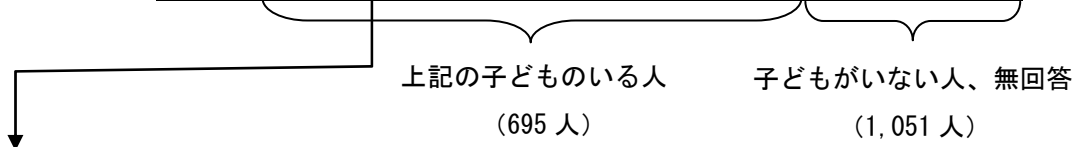
▶ 同居している子ども

専門学校生、大学生までの子どもはいない家庭が約半数。

「小学生」が14.2%でやや高く、他の項目も1割前後で続いているが、「上記に当てはまる家族（子ども）はいない」が49.7%と、約半数を占めている。

（上段：件数 下段：%）

全 体	乳 幼 児 ・ 未 就 学 児	小 学 生	中 学 生	高 校 生	専 門 学 校 生 、 大 学 生	当 て は ま る 家 族 は い な い 左 記 5 項 目 に	無 回 答
1,746	212	248	162	152	190	868	183
100.0	12.1	14.2	9.3	8.7	10.9	49.7	10.5



▶ 「小学生」「乳幼児・未就学児」を持つ家庭で、子どもを日中世話する人の有無

小学生以下の子どもがいる家庭で、日中世話する人が「いる」家庭は8割近く。

「いる」が77.3%と8割近くを占めている。

▶ 同居している高齢者

同居の高齢者は「いない」が約6割。「同居している」は約3割。

「いない」が58.0%で、約6割を占めている。一方、高齢者が「同居している」は32.6%と、約3割を占めており、「別居だが区内にいる」は6.7%で1割より少ない。

▶ 居住地域（自治会別）

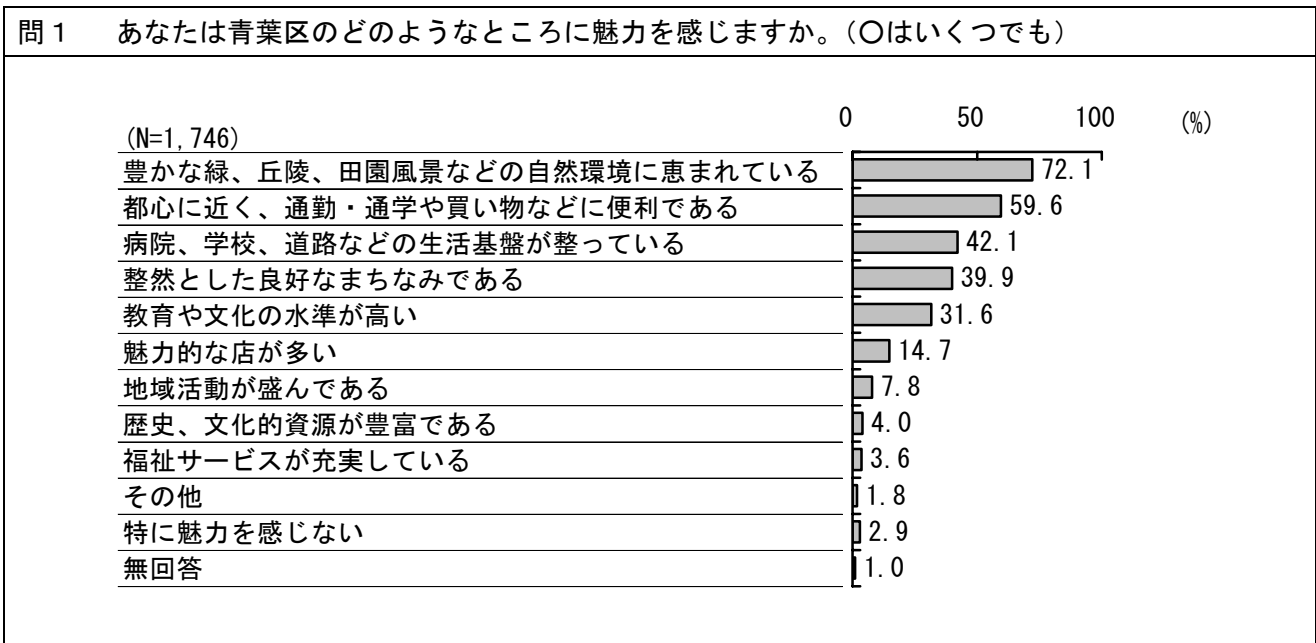
※本文の居住地域は、下記の連合自治会・町内会を単位としています。

中里連合自治会	大場町、鉄町、黒須田、みすずが丘
中里北部連合町内会	鴨志田町、寺家町、たちばな台一丁目、二丁目、成合町
市ヶ尾連合自治会	市ヶ尾町
上谷本連合町内会	上谷本町、柿の木台、みたけ台、もえぎ野
谷本連合自治会	梅が丘、下谷本町、千草台、藤が丘一丁目、二丁目
恩田連合自治会	あかね台一丁目、二丁目、榎が丘、恩田町、桂台一丁目、二丁目、田奈町、松風台
青葉台連合自治会	青葉台一丁目、二丁目、桜台、さつきが丘、しらとり台、つつじが丘、若草台
奈良町、奈良北団地連合自治会	すみよし台、奈良町、奈良一丁目、二丁目、三丁目、四丁目、五丁目、緑山
山内連合自治会	あざみ野一丁目、二丁目、三丁目、四丁目、美しが丘四丁目、五丁目、美しが丘西一丁目、二丁目、 荏子田一丁目、二丁目、三丁目、元石川町
荏田、荏田西、新荏田連合自治会	あざみ野南一丁目、二丁目、三丁目、四丁目、荏田町、荏田北一丁目、二丁目、三丁目、 荏田西一丁目、二丁目、三丁目、四丁目、五丁目、新石川一丁目、二丁目、三丁目、四丁目
すすき野連合自治会	美しが丘西三丁目、すすき野一丁目、二丁目、三丁目、もみの木台
美しが丘連合自治会	美しが丘一丁目、二丁目、三丁目

3 調査結果

1 青葉区の生活環境について

1) 青葉区の魅力



POINT

「豊かな緑、丘陵、田園風景などの自然環境に恵まれている」と、次いで「都心に近く、通勤・通学や買い物などに便利である」のそれぞれが半数を超え、一見相対する魅力が上位2項目を占めている。

一方、「特に魅力を感じない」は、3%弱となっている。

青葉区の魅力は、「豊かな緑、丘陵、田園風景などの自然環境に恵まれている」が72.1%で最も高く、次いで「都心に近く、通勤・通学や買い物などに便利である」が59.6%、「病院、学校、道路などの生活基盤が整っている」が42.1%、「整然とした良好なまちなみである」が39.9%、「教育や文化の水準が高い」が31.6%の順となっている。上位2項目は過半数の回答を得ている。

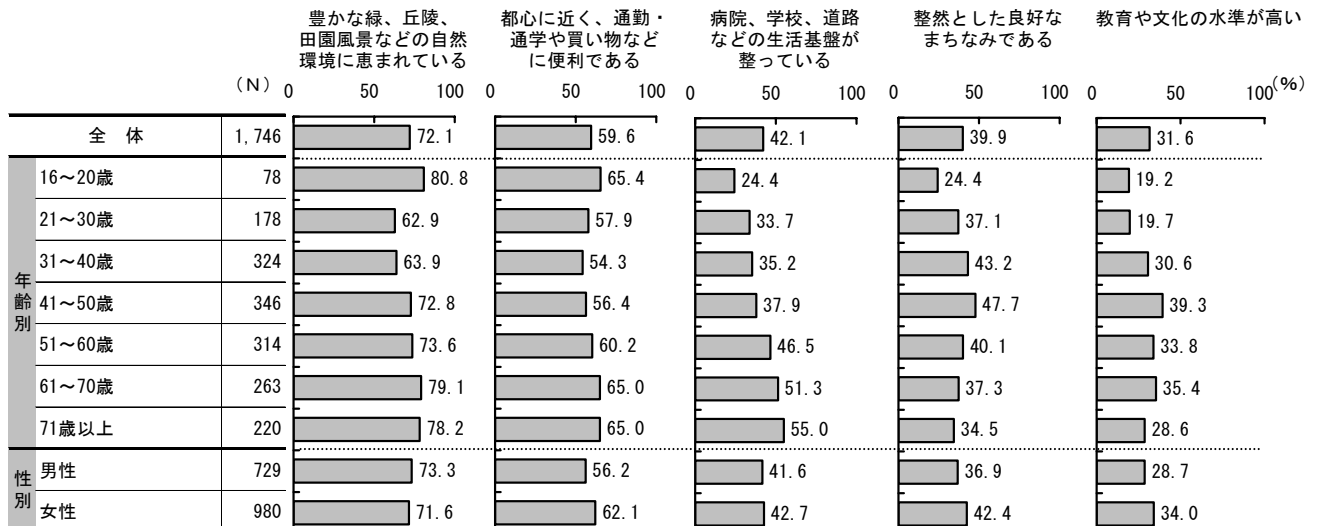
なお、「その他」では、「治安が良い」などの回答があった。

<年齢別・性別>

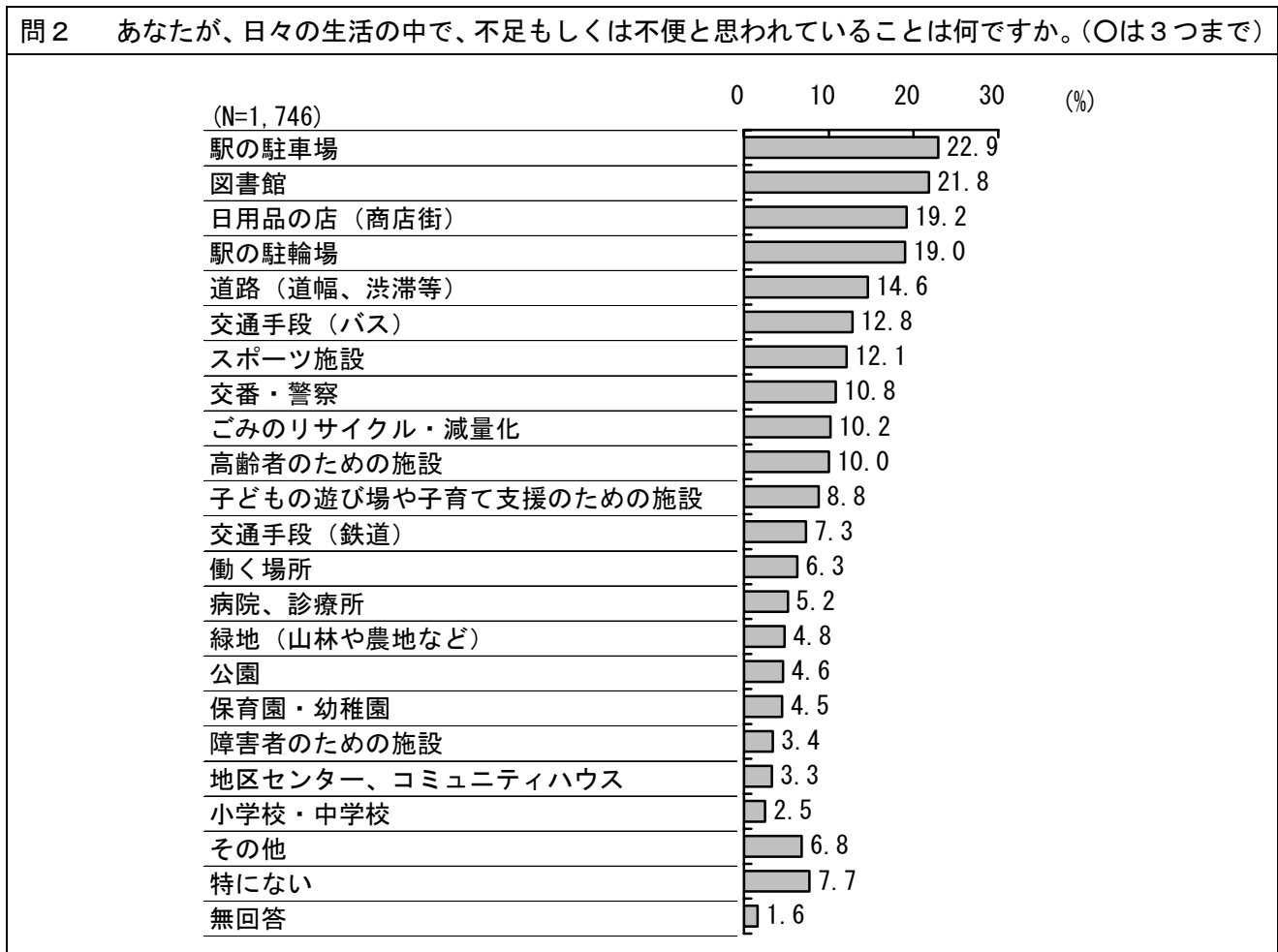
年齢別にみると、「豊かな緑、丘陵、田園風景などの自然環境に恵まれている」は、21～40歳で6割台となっているほかは、すべての年齢層で7割を超えている。また、「病院、学校、道路などの生活基盤が整っている」は、年齢が上がるほど高くなっている。

性別にみると、「都心に近く、通勤・通学や買い物などに便利である」と「整然とした良好なまちなみである」、「教育や文化の水準が高い」の3項目で女性の割合の方が男性よりも5ポイント以上高くなっている。

<年齢別・性別：全体の上位5項目>



2) 日々の生活の中で、不足もしくは不便とされていること



POINT

「駅の駐車場」と「図書館」が2割台で並んで高い。
 駅周辺や道路、交通手段など、交通関連事項が上位に集まっている。
 一方、「特にない」は、1割弱。

生活の中で不足もしくは不便に感じていることは、「駅の駐車場」(22.9%)と「図書館」(21.8%)が並んで高く、「日用品の店(商店街)」が19.2%、「駅の駐輪場」が19.0%、「道路(道幅、渋滞等)」が14.6%の順となっており、交通関連事項が上位に集中している。

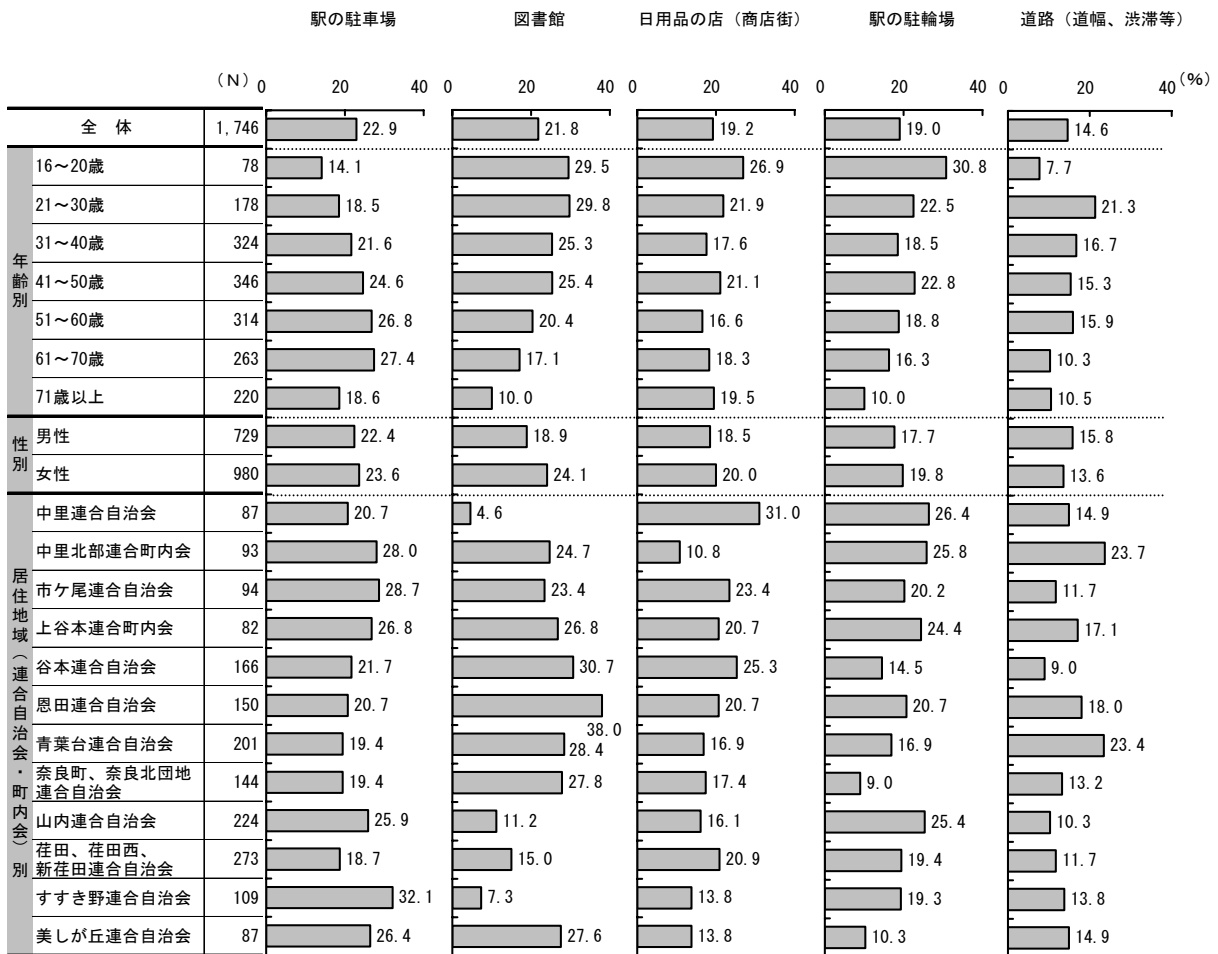
<年齢別・性別・居住地域別>

年齢別にみると、「駅の駐車場」は年齢が上がるほど割合が高くなる一方、「図書館」は年齢が下がるほどに高くなる傾向がある。また、「日用品の店(商店街)」と「駅の駐輪場」は16~20歳で他の年齢層と比較して割合が高くなっている。

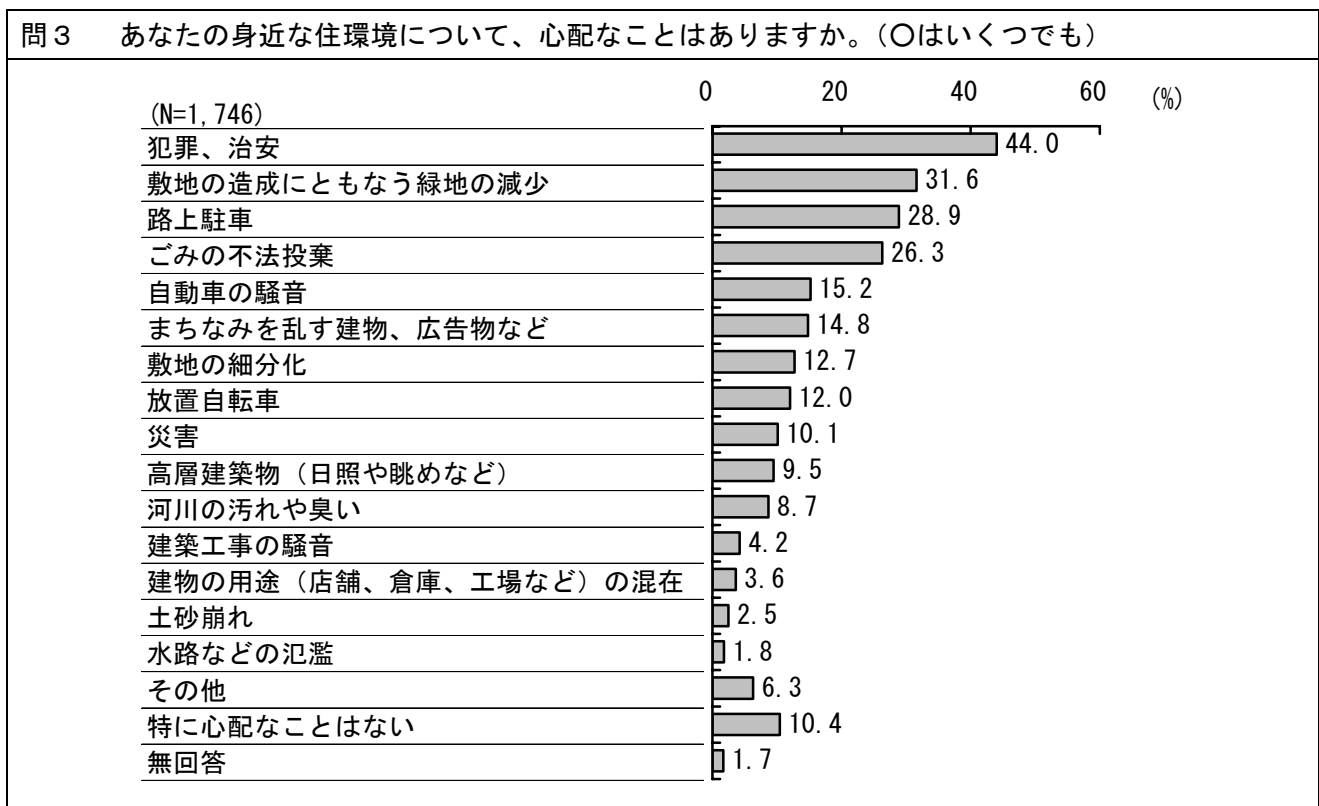
性別にみると、「図書館」の割合は女性の方が男性より5.2ポイント高くなっている。

居住地域別にみると、地域によって最も不足、不便と思われるものは異なっているが、ほとんどの地域で全体の上位2項目のどちらかの割合が最も高くなっている。

<年齢別・性別・居住地域別：全体の上位5項目>



3) 身近な住環境について心配なこと



POINT

「犯罪、治安」が最も高く、2番目の「敷地の造成にともなう緑地の減少」とは10ポイント以上の差。

「特に心配なことはない」は約1割。

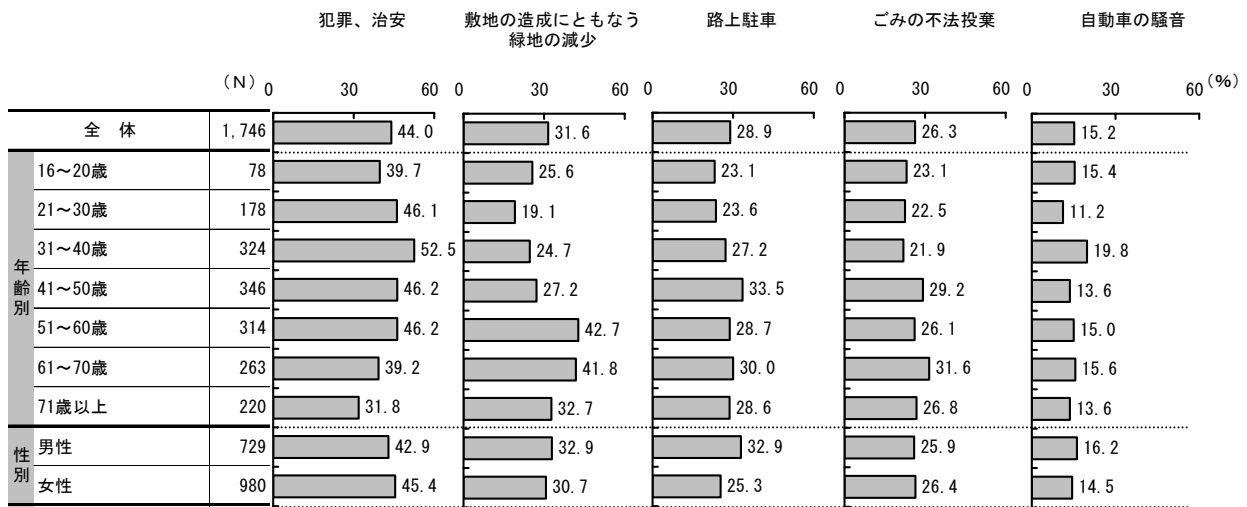
住環境について心配なことは、「犯罪、治安」が44.0%で最も高く、次いで「敷地の造成にともなう緑地の減少」が31.6%、「路上駐車」が28.9%、「ごみの不法投棄」が26.3%の順で、以上の4項目で2割以上の回答となっている。

<年齢別・性別>

年齢別にみると、「犯罪、治安」は、21～60歳で4割を超えて高く、特に31～40歳では過半数に達している。また、51～70歳では、「敷地の造成にともなう緑地の減少」も4割を超えて高くなっている。

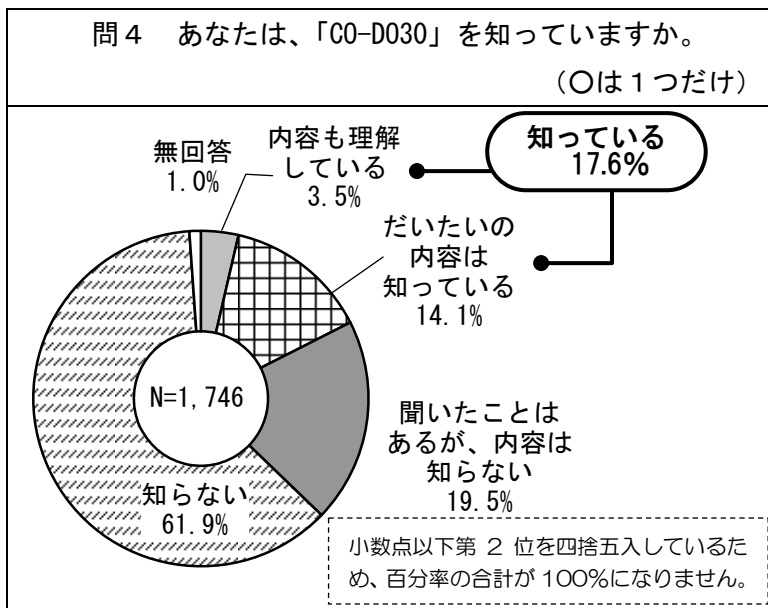
性別にみると、「路上駐車」で男性の割合の方が女性よりも7.6ポイント高くなっている。

<年齢別・性別：全体の上位5項目>



2 環境・自然について

1) 「CO-D030」の認知度



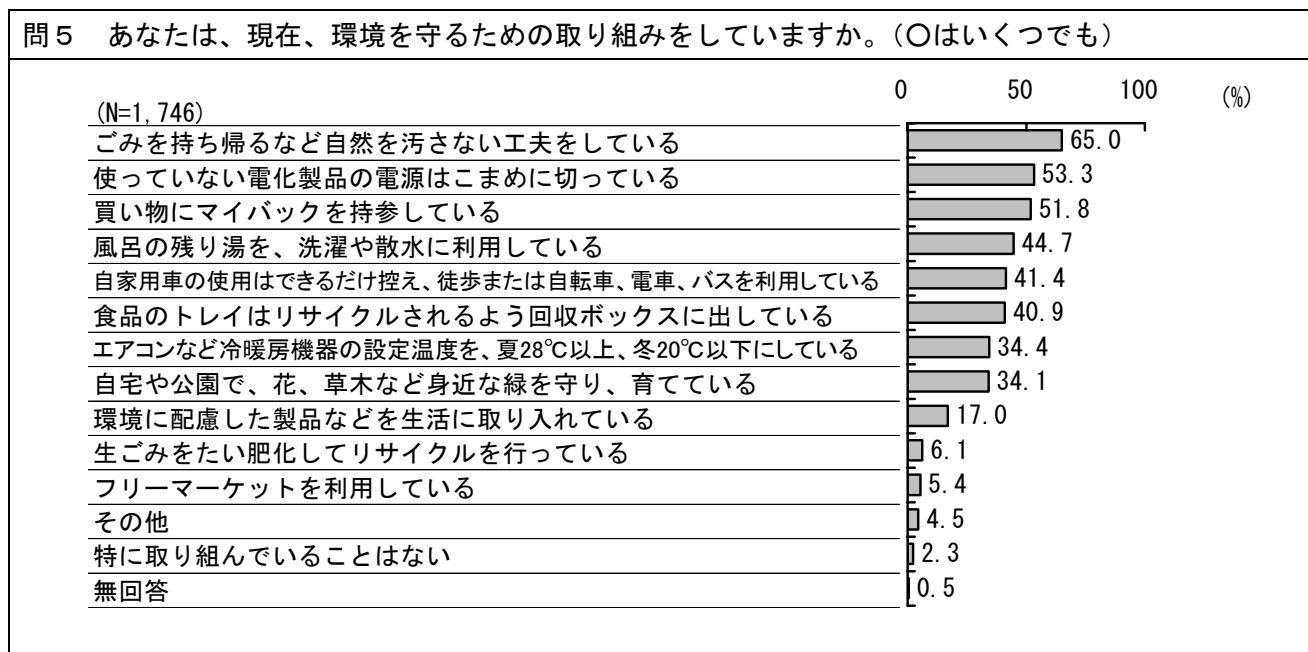
「CO-D030」の認知状況は、「知らない」が61.9%と、6割以上を占めている。

「内容も理解している」と「だいたいの内容は知っている」を合わせた『知っている』は17.6%と、2割を下回っている。

POINT

認知度は低く、『知っている』は17.6%。「知らない」が6割を占める。

2) 環境を守るために実践している取り組み



POINT

「ごみを持ち帰るなど自然を汚さない工夫をしている」の割合が最も高い。上位3項目が過半数の回答。

「特に取り組んでいることはない」はわずかで、ほとんどの人が何らかの取り組みを行っている。

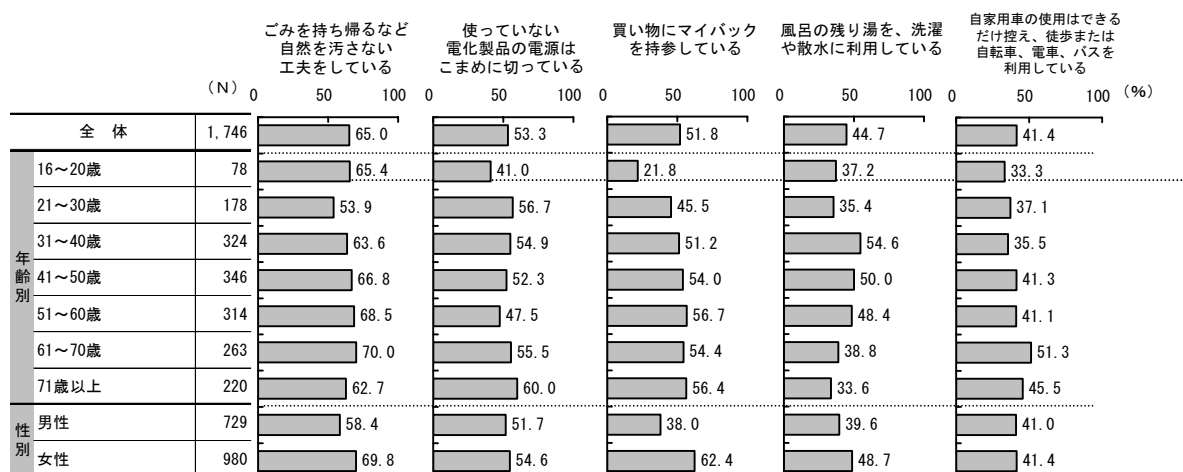
環境を守るための取り組みは、「ごみを持ち帰るなど自然を汚さない工夫をしている」の割合が 65.0% で最も高く、次いで「使っていない電化製品の電源はこまめに切っている」が 53.3%、「買い物にマイバックを持参している」が 51.8% の順で、上位 3 項目が過半数の回答を得ている。以下「風呂の残り湯を、洗濯や散水に利用している」が 44.7%、「自家用車の使用はできるだけ控え、徒歩または自転車、電車、バスを利用している」が 41.4% と続いている。

<年齢別・性別>

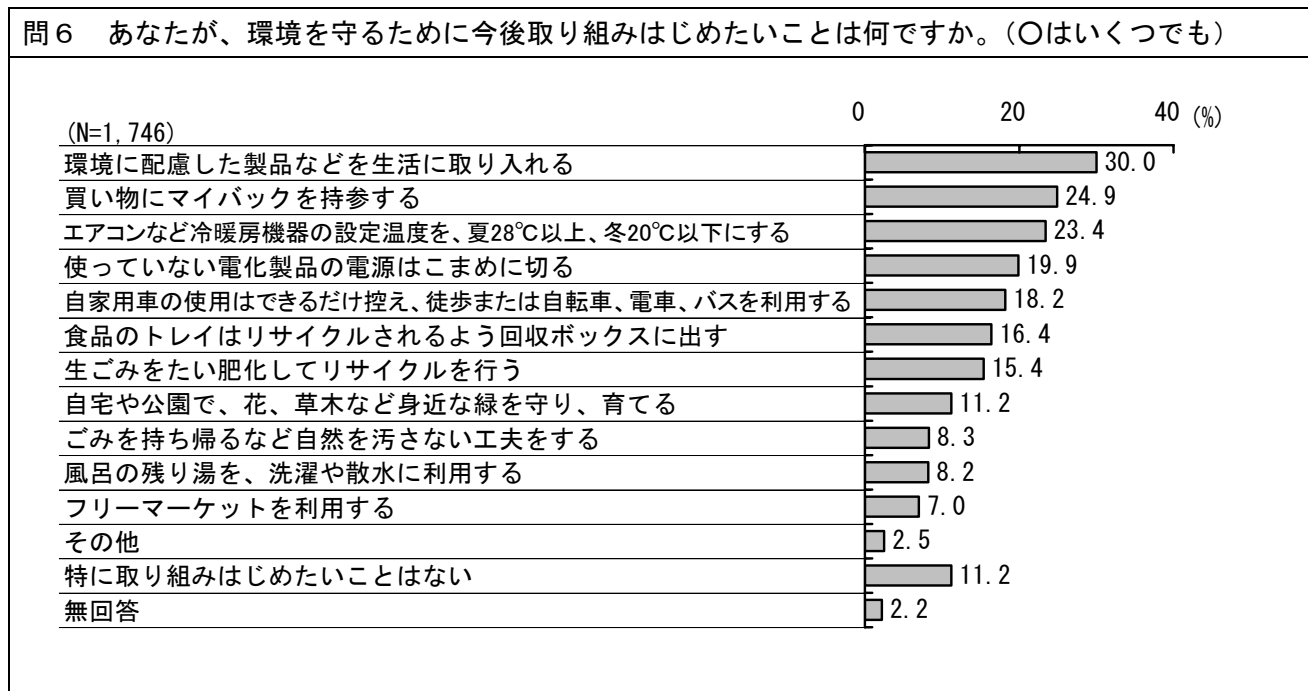
年齢別にみると、「ごみを持ち帰るなど自然を汚さない工夫をしている」はすべての年齢層で半数を超え、特に 61～70 歳では 7 割に達している。一方で 16～20 歳は取り組んでいる割合が低い項目が多く、特に「使っていない電化製品の電源はこまめに切っている」と「買い物にマイバックを持参している」の 2 項目では他の年齢層に比べて低くなっている。

性別にみると、上位 5 項目すべてにおいて女性の方が実践している割合が高く、特に「買い物にマイバックを持参している」は男性よりも 24.4 ポイント高くなっている。

<年齢別・性別：全体の上位5項目>



3) 環境を守るためにこれからしたい取り組み



POINT

「環境に配慮した製品などを生活に取り入れる」の割合が最も高い。
 「特に取り組みはじめたいことはない」とする人も約1割みられる。

環境を守るためにこれからしたい取り組みは、「環境に配慮した製品などを生活に取り入れる」が30.0%で最も高く、次いで「買い物にマイバックを持参する」が24.9%、「エアコンなど冷暖房機器の設定温度を、夏28℃以上、冬20℃以下にする」が23.4%、「使っていない電化製品の電源はこまめに切

る」が 19.9%、「自家用車の使用はできるだけ控え、徒歩または自転車、電車、バスを利用する」が 18.2% の順となっている。現在取り組んでいる割合が 2 割を下回っている「環境に配慮した製品などを生活に取り入れる」がトップになっている。また、「特に取り組みはじめたいことはない」が 1 割を超えている。

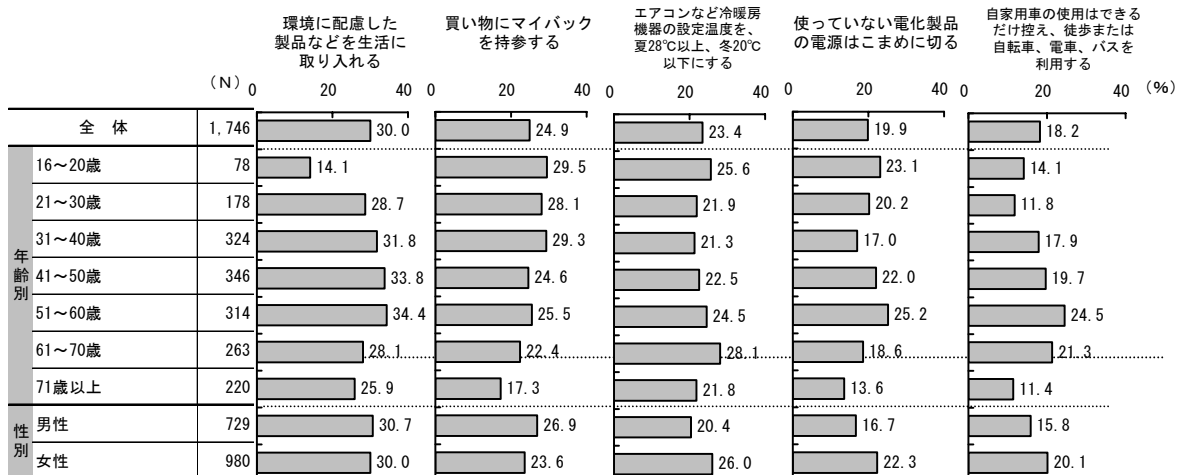
「フリーマーケットを利用する」は、現在取り組んでいること、これから取り組みたいことのいずれにおいても 1 割を下回っている。

<年齢別・性別>

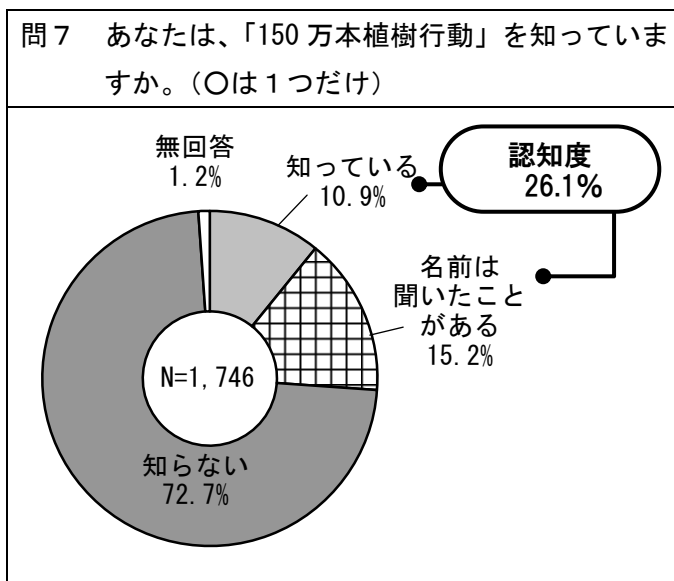
年齢別にみると、「環境に配慮した製品などを生活に取り入れる」は 31～60 歳で 3 割を超えて高くなっている一方、16～20 歳では 1 割台にとどまっている。「買い物にマイバックを持参する」は、40 歳以下が約 3 割で他の年齢層と比較して高くなっている。

性別にみると、「エアコンなど冷暖房機器の設定温度を、夏 28℃以上、冬 20℃以下にする」と「使っていない電化製品の電源はこまめに切る」の2項目で女性の割合の方が男性よりも 5.6 ポイント高くなっている。

<年齢別・性別：全体の上位5項目>



4) 「150万本植樹行動」の認知度



「150万本植樹行動」は「知らない」が72.7%と7割以上を占めている。一方、「知っている」は約1割で、これに「名前が聞いたことがある」を合わせた『認知度』は、2割強となっている。

昨年度の調査では、選択肢が少し異なるものの、「知っている」は7.6%にとどまることから、確実に認知度が高まっている。

POINT

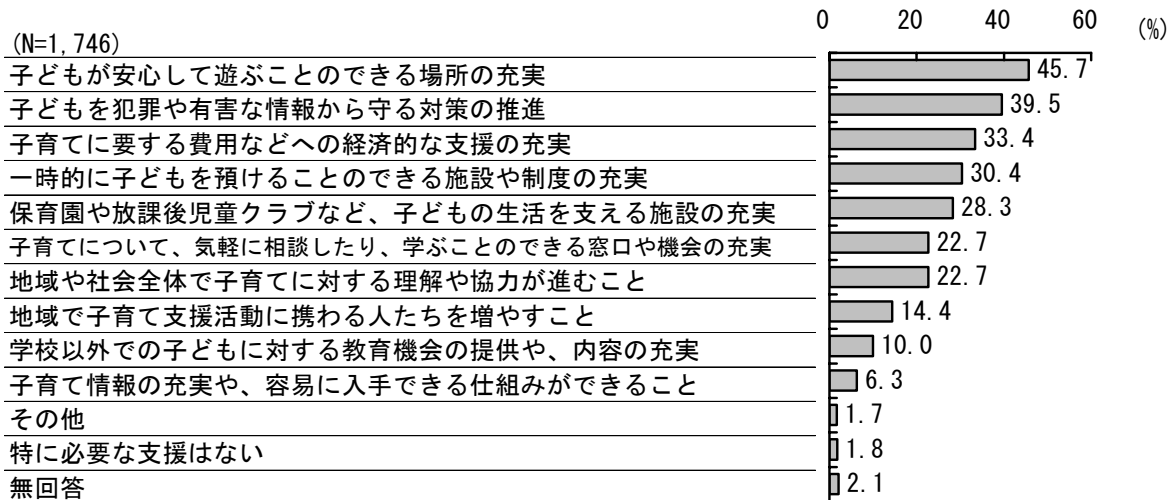
『認知度』は2割強だが、昨年度調査よりも高まっている。「知らない」が大半を占める。

3 福祉・健康問題について

1) 子育て中の家庭を支援するために充実すべきこと

問 8 子育て中の家庭を支援するためには、どのようなことを充実する必要があると考えますか。

(○は3つまで)



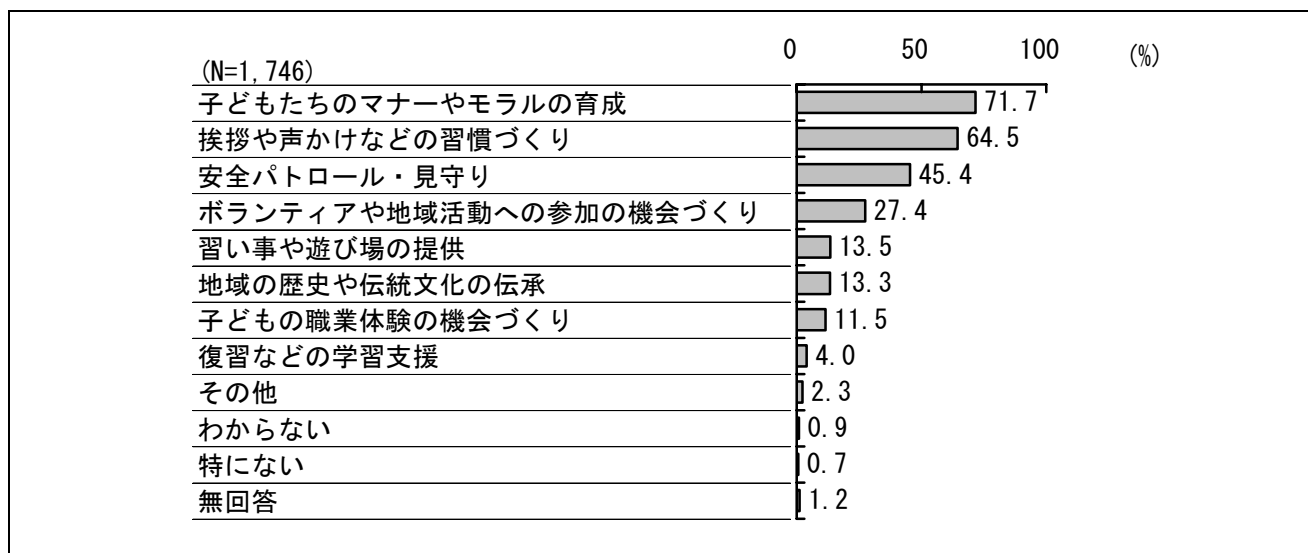
POINT

1位の「子どもが安心して遊ぶことのできる場所の充実」は約半数となっており、上位5項目まで3割前後と、複数回答する人が多くみられる。
 上位2項目は子どもに対して、以下5項目まで親に対しての支援になっている。

子育て中の家庭を支援するために充実すべきことは、「子どもが安心して遊ぶことのできる場所の充実」が45.7%で最も高く、次いで「子どもを犯罪や有害な情報から守る対策の推進」が39.5%、「子育てに要する費用などへの経済的な支援の充実」が33.4%、「一時的に子どもを預けることのできる施設や制度の充実」が30.4%、「保育園や放課後児童クラブなど、子どもの生活を支える施設の充実」が28.3%の順となっている。子どもに対する支援が上位2項目を占めている。

2) 子どもたちが健やかに成長するために地域が担う役割

問 9 子どもたちが健やかに成長するために、地域が担う役割として、あなたが特に重要だと思うものは何ですか。(○は3つまで)



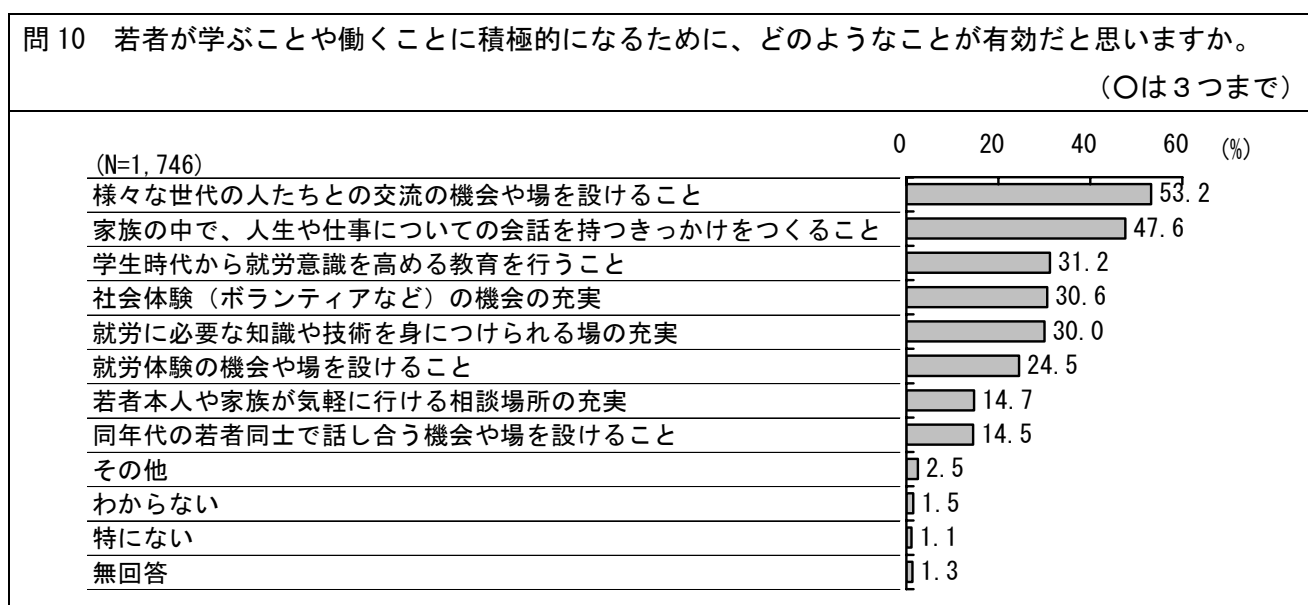
POINT

「子どもたちのマナーやモラルの育成」の割合が最も高く、次いで「挨拶や声かけなどの習慣づくり」が続き、上位2項目は半数を超える回答。

子どもたちが健やかに成長するために地域が担う役割は、「子どもたちのマナーやモラルの育成」が71.7%で最も高く、次いで「挨拶や声かけなどの習慣づくり」が64.5%と、上位2項目は半数を大きく超える回答になっている。以下、「安全パトロール・見守り」が45.4%、「ボランティアや地域活動への参加の機会づくり」が27.4%の順となっている。

なお、「その他」では、「親や大人のモラルの向上」や「高齢者との交流」などの回答があった。

3) 若者が学ぶことや働くことに積極的になるために有効なこと



POINT

「様々な世代の人たちとの交流の機会や場を設けること」の割合が最も高く、過半数の回答。

上位2項目が特に高いが、5項目まで3割以上と、様々な働きかけが有効と考えられている。

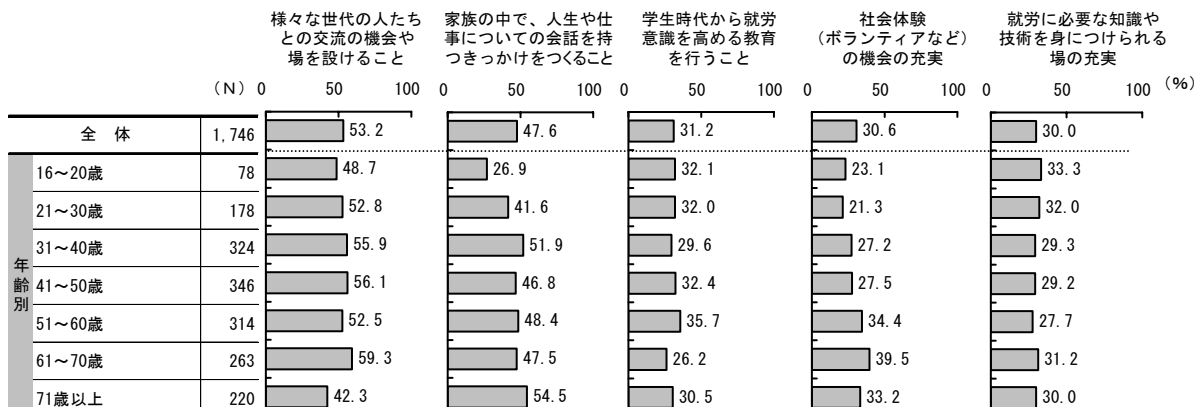
若者が学ぶことや働くことに積極的になるために有効なことは、「様々な世代の人たちとの交流の機会や場を設けること」が 53.2%で最も高く、「家族の中で、人生や仕事についての会話を持つきっかけをつくること」が 47.6%で続き、上位2項目が特に高い。以下、「学生時代から就労意識を高める教育を行うこと」が 31.2%、「社会体験（ボランティアなど）の機会の充実」が 30.6%、「就労に必要な知識や技術を身につけられる場の充実」が 30.0%の順になっている。

なお、「その他」では、「親が甘やかさないこと」や「親自体を教育すること」などの回答があった。

<年齢別>

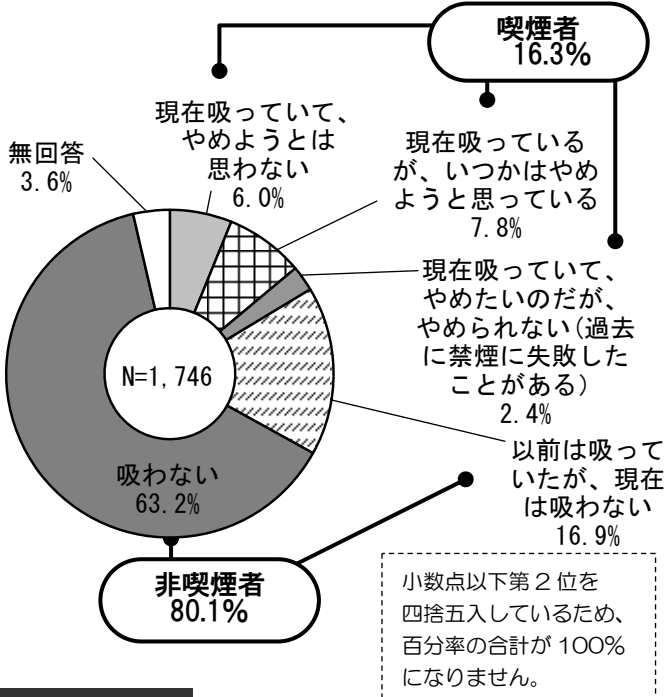
年齢別にみると、71歳以上では「家族の中で、人生や仕事についての会話を持つきっかけをつくること」の割合が最も高く、70歳以下では「様々な世代の人たちとの交流の機会や場を設けること」が最も高くなっている。16～20歳では、「就労に必要な知識や技術を身につけられる場の充実」が 33.3%、「学生時代から就労意識を高める教育を行うこと」が 32.1%で続き、70歳以下では2番目に高い「家族の中で、人生や仕事についての会話を持つきっかけをつくること」は、2割台で4番目にとどまっている。

<年齢別・性別・職業別：全体の上位5項目>



4) 喫煙状況

問 11 あなたは、タバコを吸いますか。
 ※ 20歳以上の方のみお答え下さい。
 (○は1つだけ)



POINT

『喫煙者』は16.3%、『非喫煙者』は80.1%を占める。『非喫煙者』のうち「以前は吸っていたが、現在は吸わない」は2割強。また『喫煙者』のうち、禁煙意向を持つ人が6割を超えている。

喫煙状況は、「吸わない」が63.2%と、6割以上を占め、「以前は吸っていたが、現在は吸わない」(16.9%)と合わせた『非喫煙者』が80.1%と8割に達している。

一方、『喫煙者』は16.3%であるが、『喫煙者』の中では「現在吸っているが、いつかはやめようと思っている」と「現在吸っていて、やめたいのだが、やめられない(過去に禁煙に失敗したことがある)」を合わせると63.0%に達し、禁煙意向を持つ人が過半数を占めている。

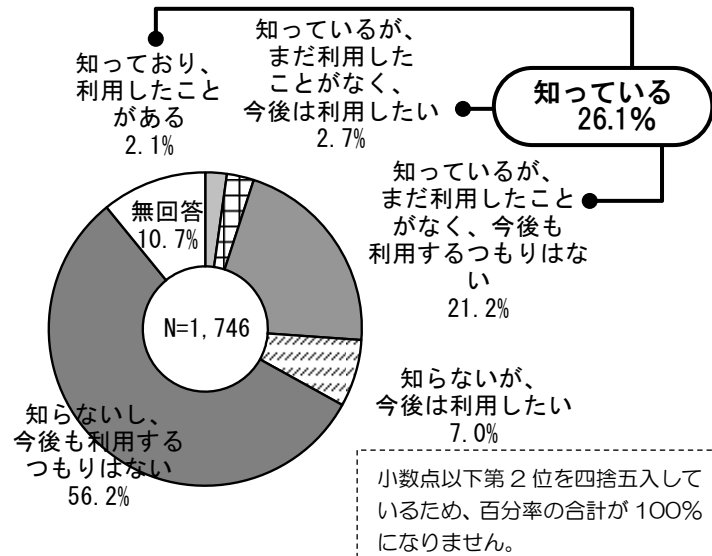
【参考】

『喫煙者』の内訳	件数	割合
現在吸っていて、やめようとは思わない	105	37.0%
現在吸っているが、いつかやめようと思っている	137	48.2%
現在吸っていて、やめたいのだが、やめられない(過去に禁煙に失敗したことがある)	42	14.8%
喫煙者合計	284	100.0%

『非喫煙者』の内訳	件数	割合
以前は吸っていたが、現在は吸わない	295	21.1%
吸わない	1,104	78.9%
非喫煙者合計	1,399	100.0%

5) 禁煙教室や禁煙相談、禁煙外来の認知度

問12 区役所で禁煙教室や禁煙相談を実施しているほか、医療機関では禁煙外来を行っています。あなたは、これらを知っていますか。※20歳以上の方のみお答え下さい。(○は1つだけ)



区役所で行っている禁煙教室や禁煙相談、医療機関の禁煙外来などの認知度は、「知らないし、今後も利用するつもりはない」が56.2%で、6割近くを占めている。

一方、『知っている』は26.1%であるが、そのうち、「知っているが、まだ利用したことがなく、今後も利用するつもりはない」が21.2%と、高くなっている。

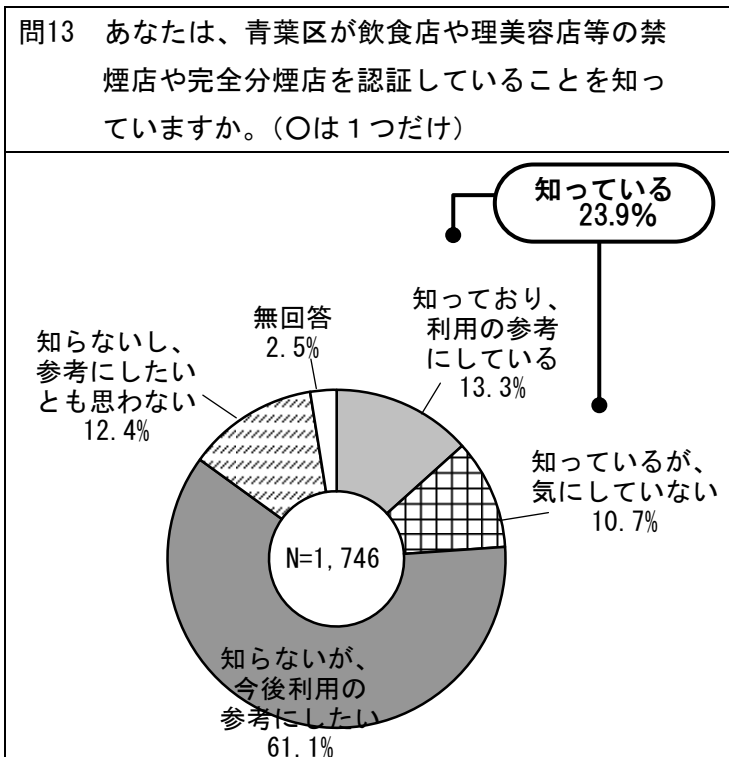
また、「知らないが、今後は利用したい」は、その約3分の1にあたる7.0%にとどまっている。

POINT

『知っている』は約4人に1人の割合で、「知っているが、まだ利用したことがなく、今後も利用するつもりはない」が約2割。

喫煙者が少ないことが関係し、「知らないし、今後も利用するつもりはない」が過半数を占めている。

6) 禁煙店・完全分煙店の認証の認知度



禁煙店・完全分煙店の認証の認知度は、「知らないが、今後利用の参考にしたい」が61.1%と、6割以上を占めている。一方、『知っている』は23.9%で、2割強にとどまっている。

POINT

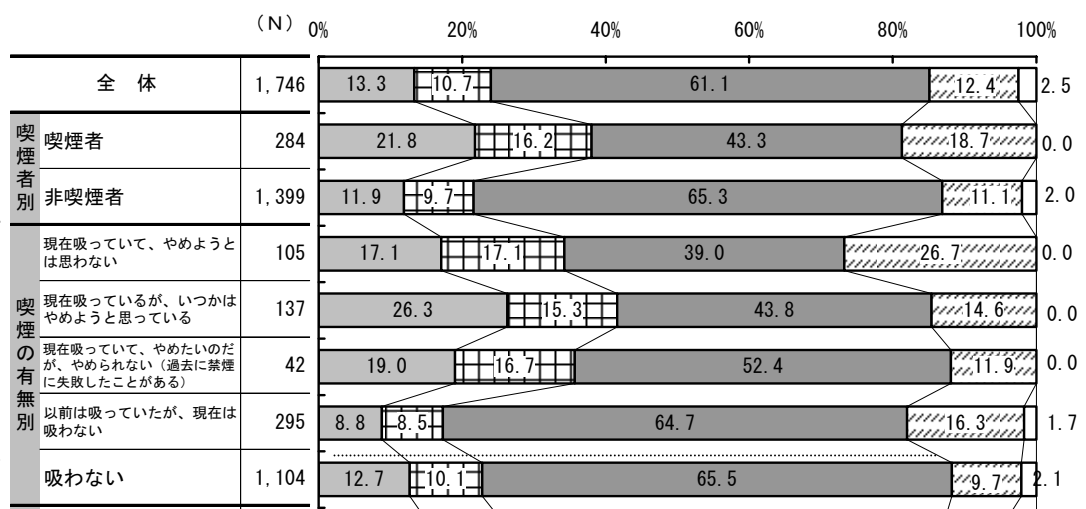
『知っている』は2割強。前問よりわずかに認知度が低いですが、「知らないが、今後利用の参考にしたい」が6割以上を占め、関心は高い。

<喫煙者別・喫煙の有無別>

喫煙の有無別にみると、『知っている』割合が最も高いのは、現在吸っているが、いつかはやめようと思っている人で約4割、またそのうち半数以上が「知っている、利用の参考にして

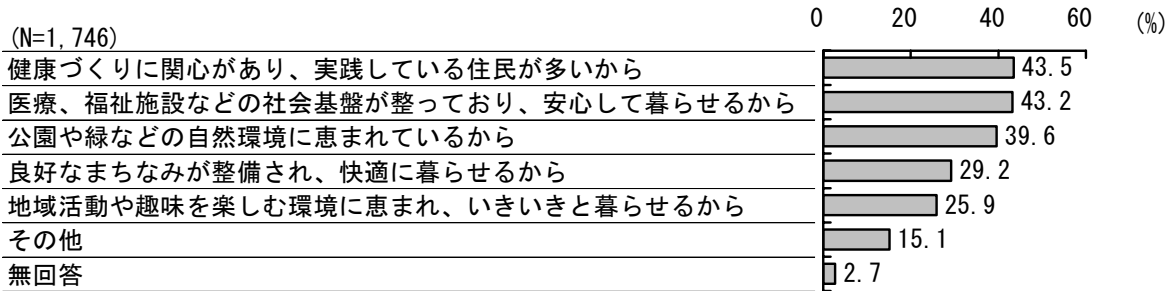
いる」となっている。最も利用する駅別にみると、すべての駅で「知らないが、今後利用の参考にしたい」の割合が半数を超えて最も高くなっている。

居住地域別でも、すべての地域で「知らないが、今後利用の参考にしたい」の割合が半数を超え、最も高くなっている。



7) 青葉区が長寿のまちである要因

問14 青葉区は、4月に厚生労働省が発表した「平成17年（2005年）市区町村別平均寿命」によると、男性が全国1位（81.7才）、女性が全国7位（88.0才）という長寿のまちであることがわかりました。あなたは、この要因をどのように考えますか。（〇はいくつでも）



POINT

「健康づくりに関心があり、実践している住民が多いから」と「医療、福祉施設などの社会基盤が整っており、安心して暮らせるから」の割合が並んで高く、長寿の主な要因と考えている人が多い。

青葉区が長寿のまちである要因は、「健康づくりに関心があり、実践している住民が多いから」（43.5%）と「医療、福祉施設などの社会基盤が整っており、安心して暮らせるから」（43.2%）が並んで高く、次いで「公園や緑などの自然環境に恵まれているから」が39.6%となっている。

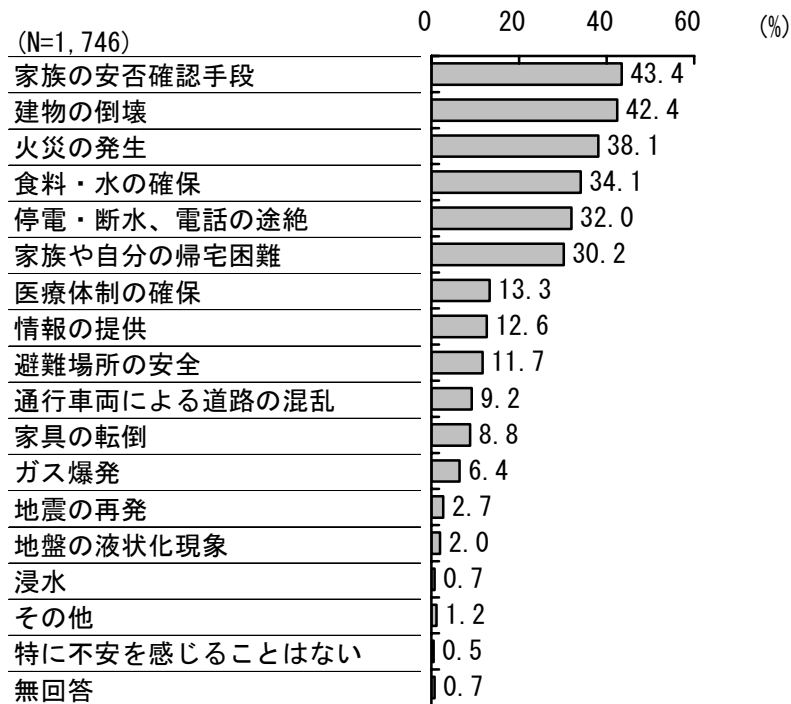
なお、「その他」では、「経済的にゆとりのある人が多いから」や「高齢者施設が多いから」、「たまたま、偶然」などの回答があった。（詳細は下表参照）

「その他」の内容	件数	「その他」の内容	件数
経済的にゆとりのある人が多いから	130	高齢者が多いから	9
高齢者施設が多いから	33	坂道が多い・農村地帯等環境要因のため	5
わからない	20	その他	21
たまたま、偶然	14	内容記入なし	17
転入者が多いから・高齢の転入者が多いから	14	合計	263

4 防災について

1) 平日昼間に大地震が起きた場合に不安なこと

問 15 首都圏で平日の昼間に大地震が起きた場合、あなたが特に不安に思うことは何ですか。
(〇は3つまで)



POINT

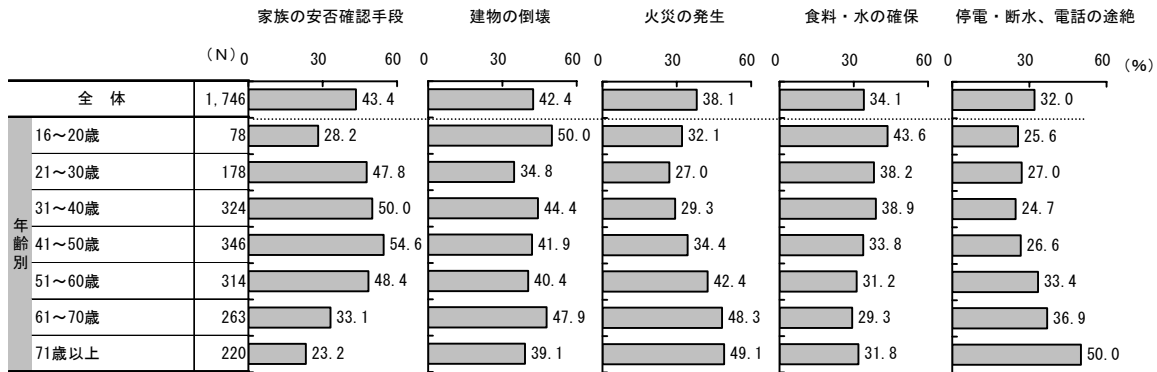
「家族の安否確認手段」と「建物の倒壊」の割合が並んで高い。
以下、上位6項目まで3割以上の回答。

平日昼間に大地震が起きた場合に不安なことは、「家族の安否確認手段」(43.4%)と「建物の倒壊」(42.4%)が並んで高く、次いで「火災の発生」が38.1%、「食料・水の確保」が34.1%、「停電・断水、電話の途絶」が32.0%、「家族や自分の帰宅困難」が30.2%の順で、以上の上位6項目が3割を超える回答で、そのほかは1割台以下になっている。

<年齢別>

年齢別では、「家族の安否確認手段」の項目は21～60歳で5割前後と高くなっている。また、「火災の発生」「停電・断水、電話の途絶」の項目は年齢が上がるほど高い割合に、反対に「食料・水の確保」の項目では年齢が下がるほど高い割合となっている。

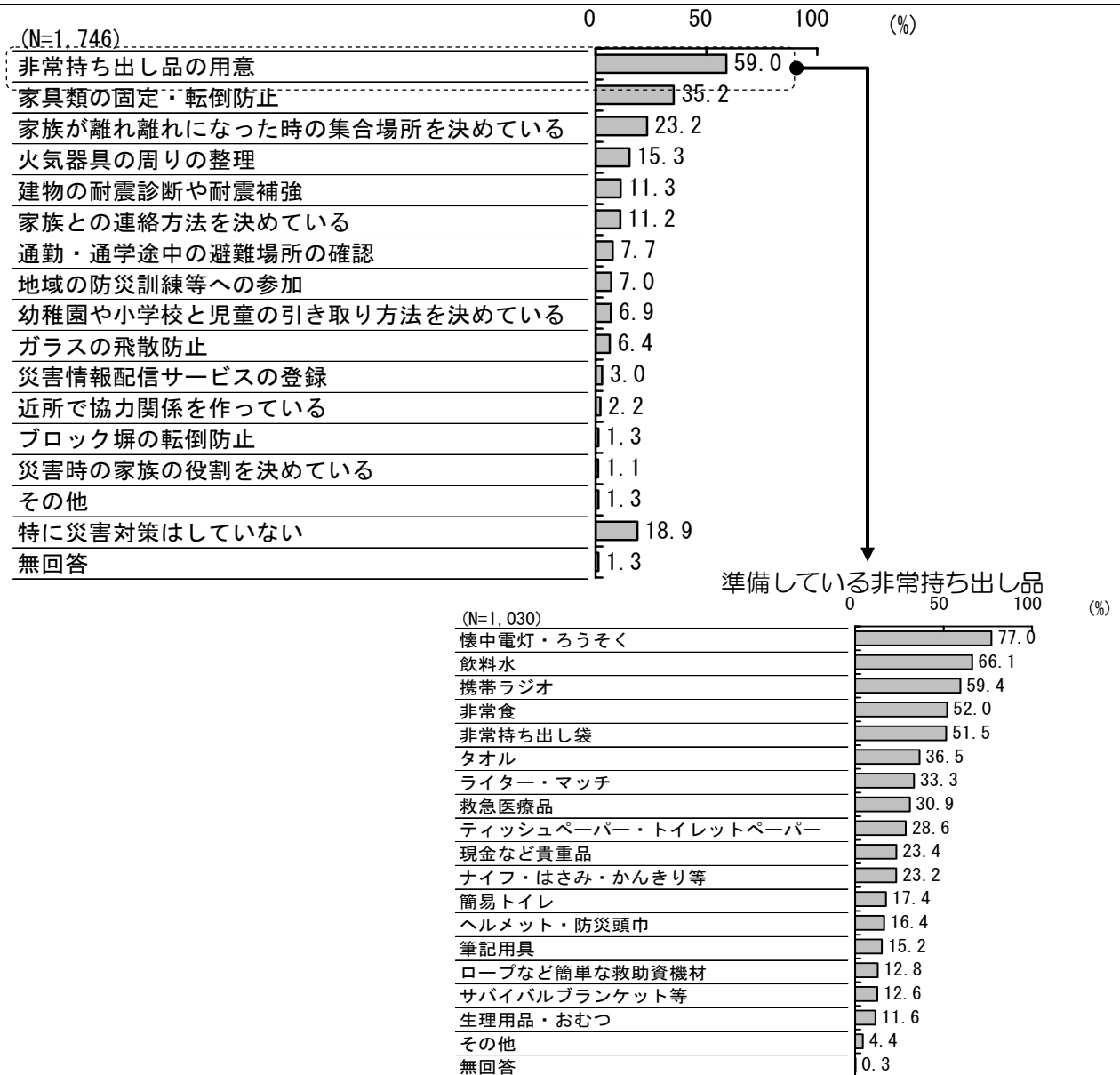
<年齢別：全体の上位 5 項目>



2) 家庭で行っている災害対策

問 16 あなたのご家庭で行っている災害対策は何ですか。(〇はいくつでも)

問 16-1 あなたのご家庭では非常持ち出し品として何を準備していますか。(〇はいくつでも)



POINT

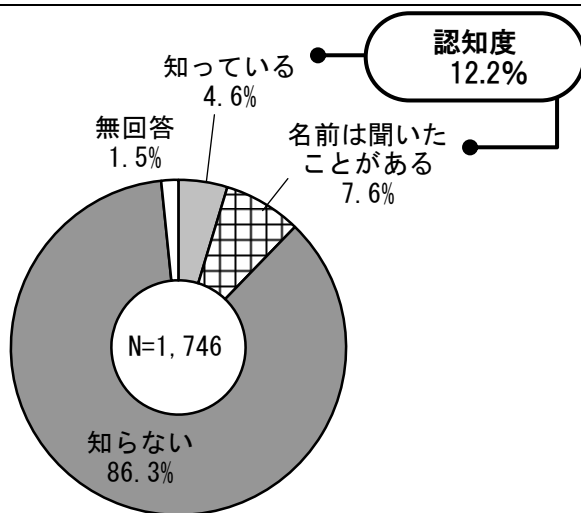
「非常持ち出し品の用意」が約6割で最も高い。準備している非常持ち出し品は「懐中電灯・ろうそく」、「飲料水」、「携帯ラジオ」が上位3品目。一方、「特に災害対策はしていない」が2割近くを占めている。

家庭で行っている災害対策は、「非常持ち出し品の用意」が59.0%で最も高く、2番目の「家具類の固定・転倒防止」とは20ポイント以上の差となっている。以下、「家族が離れ離れになった時の集合場所を決めている」が23.2%、「火気器具の周りの整理」が15.3%の順となっている。一方、「特に災害対策はしていない」が18.9%と、2割近くを占めている。

災害対策で「非常持ち出し品の用意」と回答した人の、準備している非常持ち出し品は、「懐中電灯・ろうそく」が77.0%で最も高く、次いで「飲料水」が66.1%、「携帯ラジオ」が59.4%、「非常食」が52.0%、「非常持ち出し袋」が51.5%の順で、以上の上位5項目が半数を超える回答である。

3) 「支えあいカード」の認知度

問17 あなたは、地域があらかじめ避難が難しい方（要援護者）のいる世帯を把握するための「支えあいカード」を知っていますか。（〇は1つだけ）



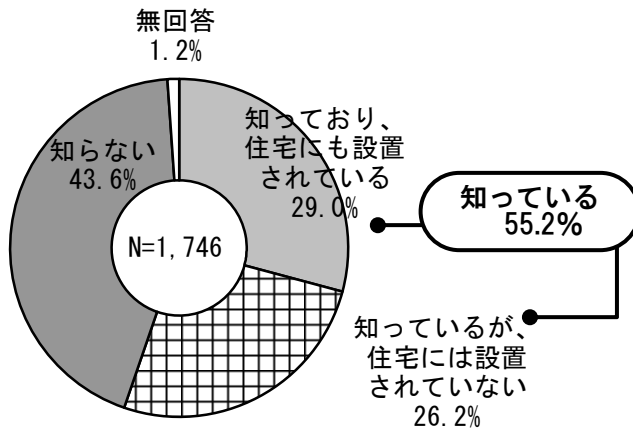
「支えあいカード」の認知度は、「知らない」が86.3%と大半を占め、認知度が低いといえる。「知っている」(4.6%)と「名前を聞いたことがある」(7.6%)を合わせても、全体の1割強である。

POINT

「支えあいカード」の認知度は低く、1割強。「知らない」が8割以上を占めている。

4) 住宅用火災警報器の設置義務化の認知度

問18 あなたは、一戸建ての住宅や小規模のアパートでも住宅用火災警報器の設置が義務付けられたことを知っていますか。 (〇は1つだけ)



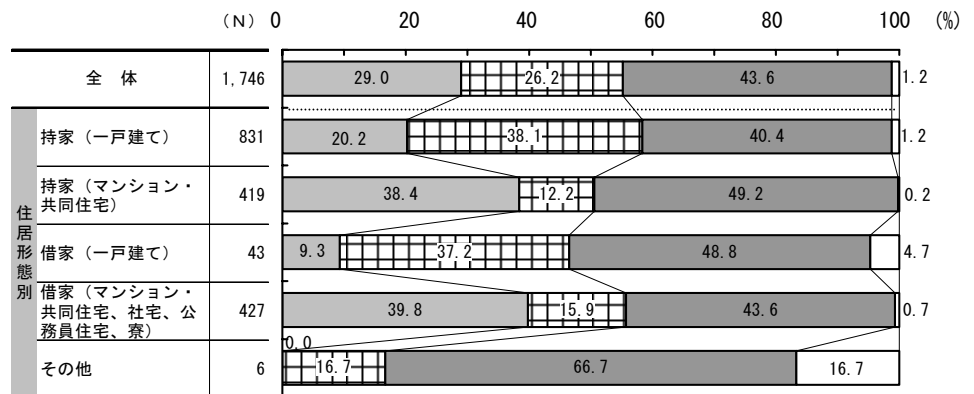
住宅用火災警報器の設置義務化の認知度は、「知らない」が43.6%で、最も高くなっている。次いで「知っており、住宅にも設置されている」が29.0%で、「知っているが、住宅には設置されていない」が26.2%となっており、合わせると義務化を『知っている』は55.2%と過半数を占めている。認知度自体は低くないが、設置している割合は3割弱にとどまっている。

POINT

設置の義務化について、『知っている』は過半数を占めている。しかし、実際に設置している割合は、3割を下回る。

<住居形態別>

住居形態別にみると、『知っている』の割合は持家（一戸建て）で最も高く約6割に達しているが、実際に設置している人は約2割にとどまっている。なお、持家、借家ともに一戸建てよりもマンションなど共同住宅の方が実際に設置している割合は高くなっている。



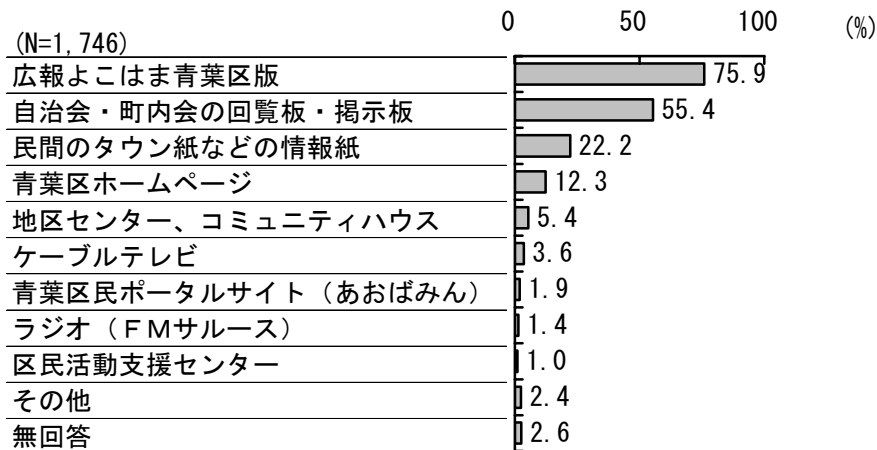
■ 知っており、住宅にも設置されている □ 知っているが、住宅には設置されていない ■ 知らない □ 無回答

5 区政サービスについて

1) 青葉区の行政情報の入手手段

問 19 あなたは、青葉区役所からの行政情報について、主にどのような手段で入手していますか。

(〇はいくつでも)



POINT

「広報よこはま青葉区版」が圧倒的に高く、7割を超える回答。
次いで「自治会・町内会の回覧板・掲示板」の割合が高く、過半数の回答。

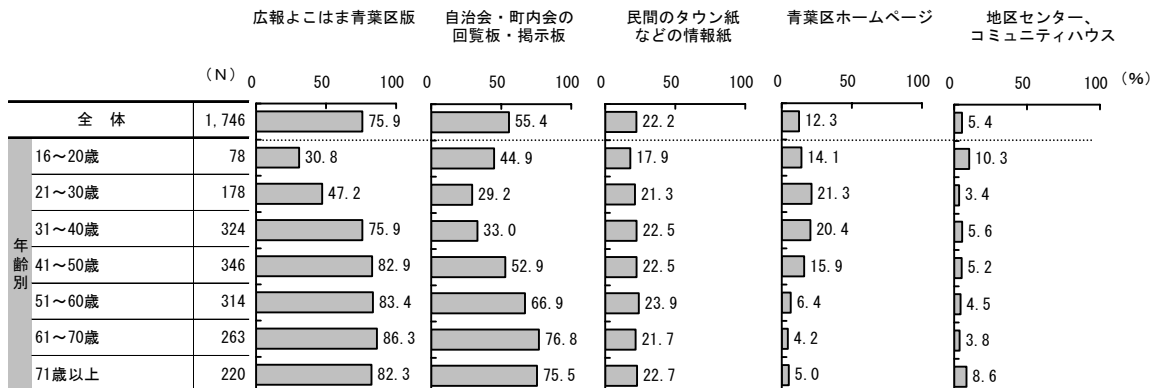
青葉区の行政情報の入手手段は、「広報よこはま青葉区版」が75.9%で圧倒的に高くなっている。次いで「自治会・町内会の回覧板・掲示板」が55.4%で高く、この2媒体において半数を上回っている。

以下、「民間のタウン紙などの情報紙」が22.2%、「青葉区ホームページ」が12.3%の順となっている。

<年齢別>

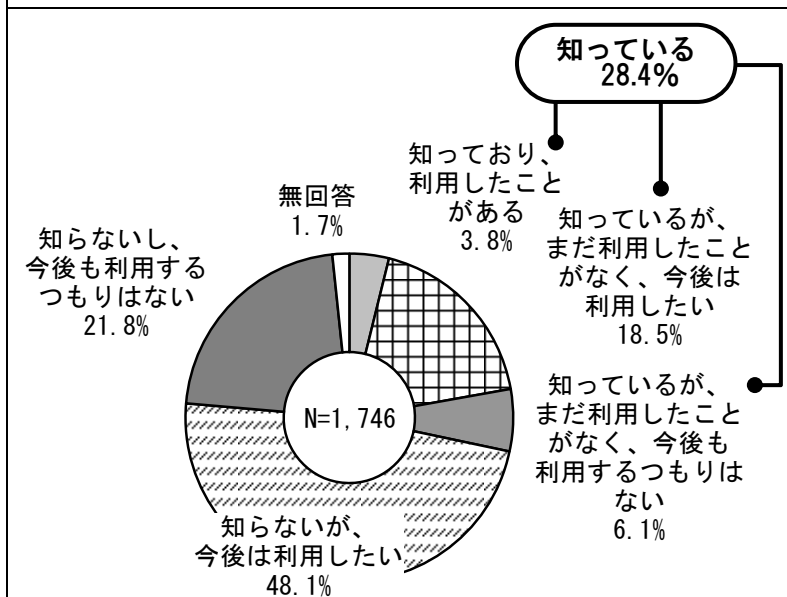
年齢別にみると、30歳以下では「広報よこはま青葉区版」の割合が半数以下と低くなっている。また21～40歳では「自治会・町内会の回覧板・掲示板」は3割程度と低くなっており、反対に「青葉区ホームページ」は約2割と他の年齢層に比べやや高くなっている。

<年齢別：全体の上位 5 項目>



2) 郵便局での証明発行窓口サービスの認知度

問20 あなたは、区内の2か所の郵便局（青葉台、横浜奈良郵便局）で行っている証明発行窓口サービスを知っていますか。（○は1つだけ）



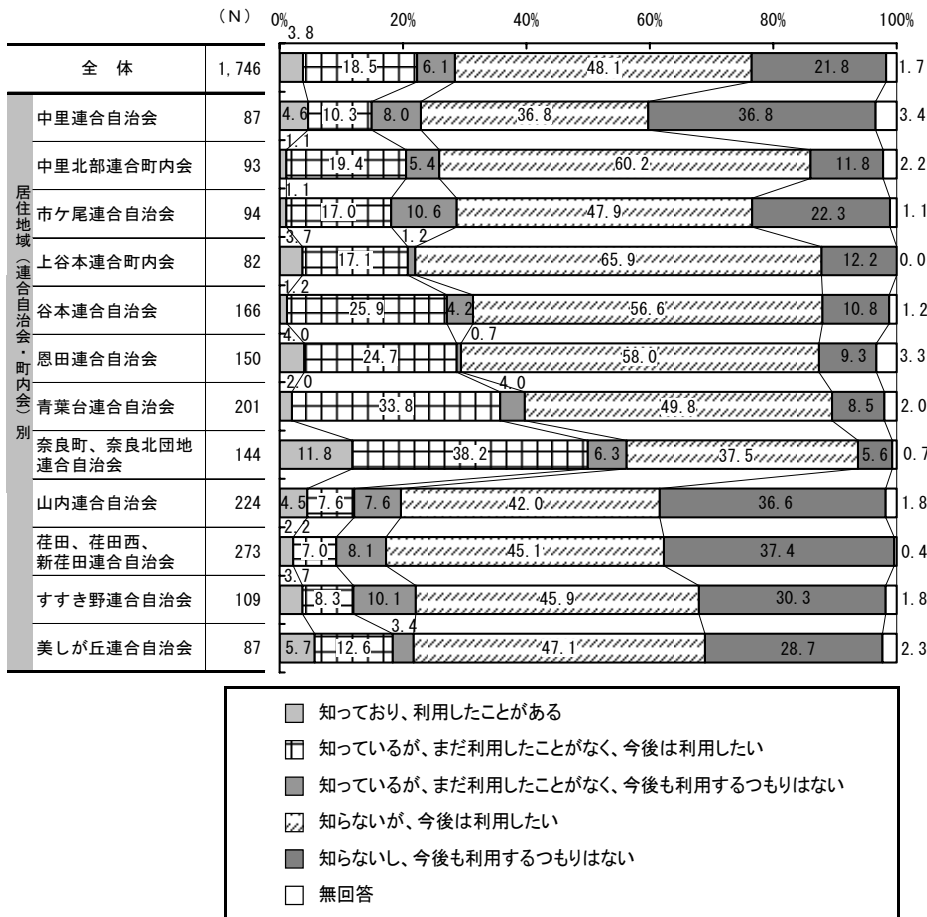
郵便局での証明発行窓口サービスの認知度は、「知らないが、今後は利用したい」が48.1%で、半数近くを占めている。次いで「知らないし、今後も利用するつもりはない」が21.8%と高く、合わせると知らない人が約4人に3人と、大半を占めている。一方、『知っている』は28.4%で、その中では「知っているが、まだ利用したことがなく、今後は利用したい」の割合が高く、18.5%となっている。認知状況にかかわらず、利用意向を持つ割合が高くなっている。

POINT

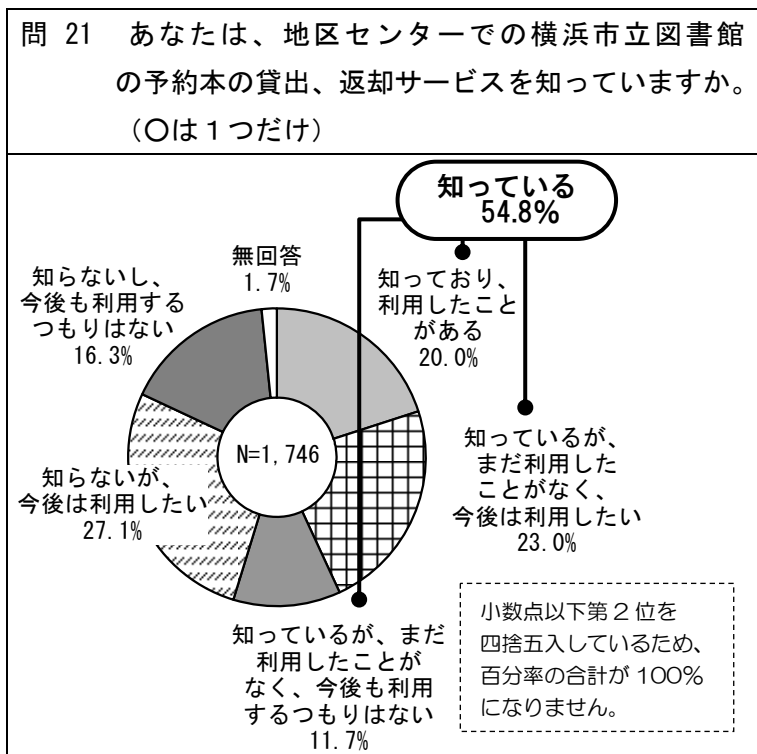
認知度は3割以下だが、昨年度調査の6倍以上となっている。
また、「知らないが、今後は利用したい」が半数近くを占めるなど、認知状況にかかわらず、今後の利用意向を持つ人が多い。

＜居住地域別＞

居住地域別にみると、『知っている』の割合が最も高いのは、奈良町、奈良北部団地連合自治会で56.3%、青葉台連合自治会で39.8%と、郵便局のある地域が上位2地域を占めている。



3) 地区センターでの図書館の予約本の貸出、返却サービスの認知度



地区センターで行っている横浜市立図書館の予約本の貸出、返却サービスの認知度は、「知らないが、今後は利用したい」が27.1%で最も高く、次いで「知っているが、まだ利用したことがなく、今後は利用したい」が23.0%と続いており、認知状況にかかわらず、今後の利用意向は高いことがうかがえる。また、サービス自体を『知っている』は54.8%と、過半数を占めている。

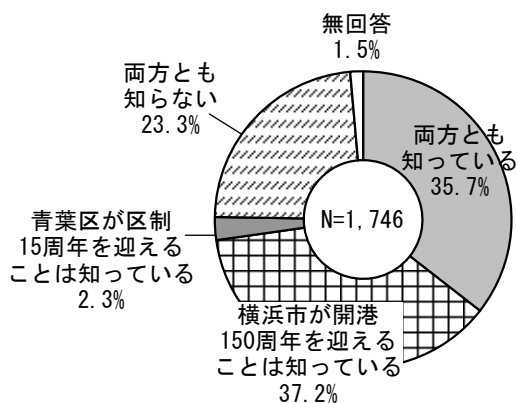
POINT

『知っている』は半数を超え、昨年度調査の2倍以上となっている。
認知状況にかかわらず、利用意向を持つ人が多い。

6 横浜市開港 150 周年、青葉区制 15 周年について

1) 横浜市開港 150 周年、青葉区制 15 周年の認知度

問22 あなたは、平成21年（2009年）に横浜市が開港150周年、青葉区が区制15周年を迎えることを知っていますか。（○は1つだけ）



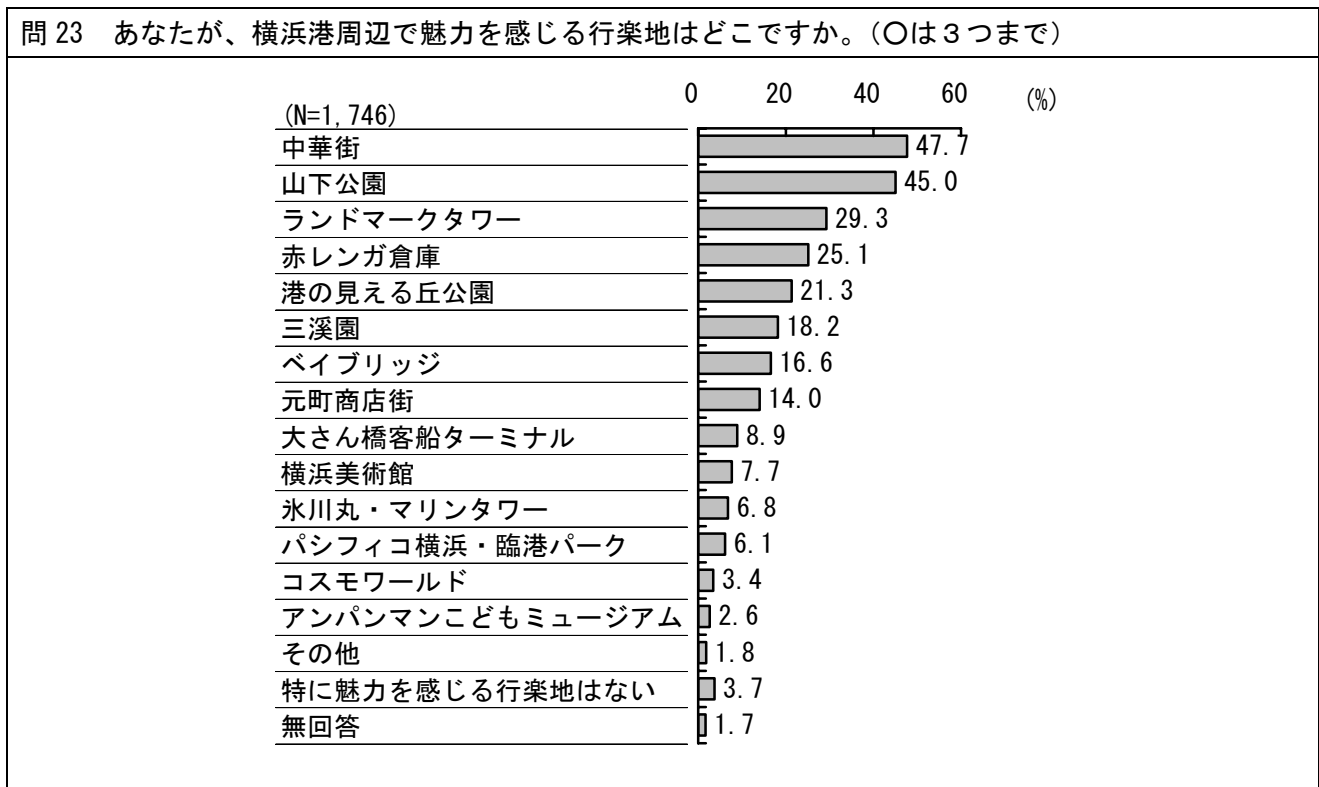
横浜市開港 150 周年、青葉区制 15 周年の認知度は、「横浜市が開港 150 周年を迎えることは知っている」（37.2%）と「両方とも知っている」（35.7%）が並んで高くなっている。一方、「両方とも知らない」は 23.3%と、約 4 人に 1 人となっている。

POINT

「横浜市が開港 150 周年を迎えることは知っている」と「両方とも知っている」が並んで高く、両方とも知っている人は、昨年度調査の2倍以上と確実に認知度が高くなっている。

「両方とも知らない」は約 4 人に 1 人で、昨年度調査の半分以下となっている。

2) 横浜港周辺で魅力を感じる行楽地



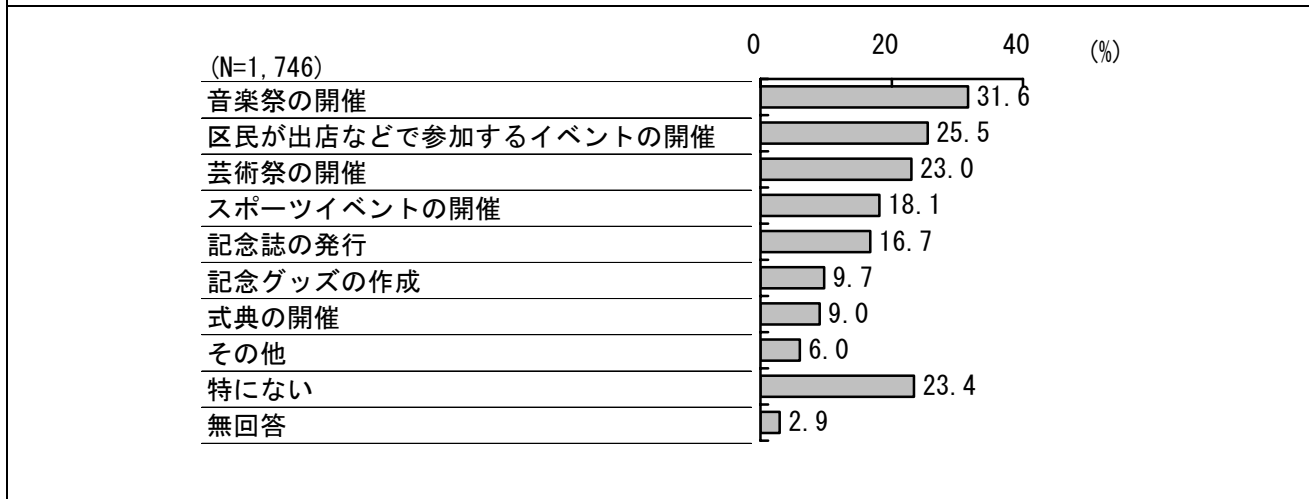
POINT

「中華街」と「山下公園」の上位2項目が4割を超えて特に高い。
以下、「ランドマークタワー」「赤レンガ倉庫」「港の見える丘公園」の順。

横浜港周辺で魅力を感じる行楽地は、「中華街」(47.7%)と「山下公園」(45.0%)の2項目が4割を超えて特に高く、次いで、「ランドマークタワー」が29.3%、「赤レンガ倉庫」が25.1%、「港の見える丘公園」が21.3%の順となっている。

3) 青葉区制 15 周年記念事業として望ましいもの

問24 あなたは青葉区制15周年記念事業として、区役所は区民とともにどのようなことを行うと良いと思いますか。(〇はいくつでも)



POINT

「音楽祭の開催」が約3割で最も高い。
以下、「区民が出店などで参加するイベントの開催」、「芸術祭の開催」の順で続く。

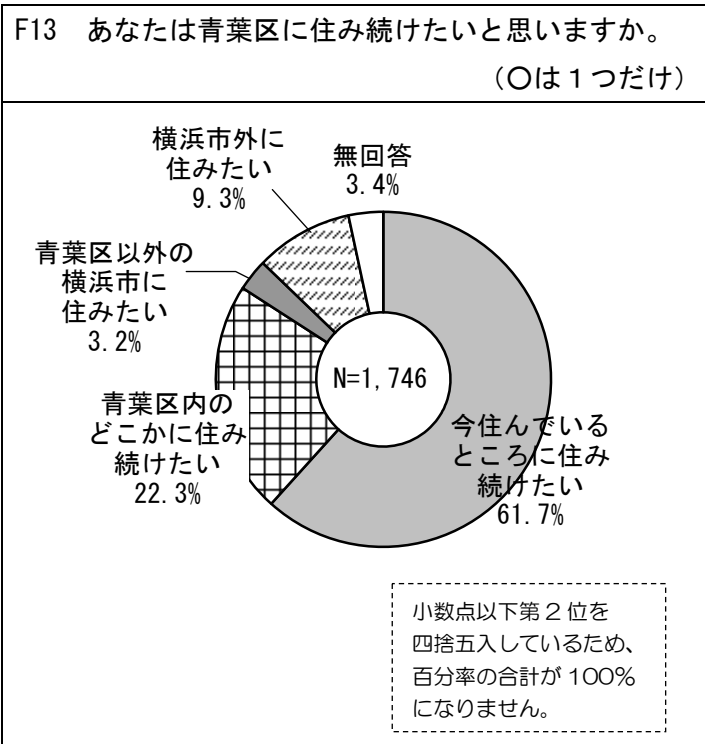
青葉区制 15 周年記念事業として望ましいものは、「音楽祭の開催」が 31.6%で最も高く、次いで「区民が出店などで参加するイベントの開催」が 25.5%、「芸術祭の開催」が 23.0%となっており、以上3項目が2割を超えている。一方、「特にない」は 23.4%となっている。

なお、「その他」では「税金を使って記念行事はするべきではない」などの回答があった。(詳細は次頁表参照)

「その他」の内容	件数	「その他」の内容	件数
税金を使っての記念行事はするべきではない	38	最低限にして支出を減らして欲しい	6
15周年での記念行事実施は適切ではない	11	記念行事の予算を福祉分野に使ってほしい	4
記念植樹など	8	その他	24
区民の意見を聞く場を設けてほしい	7	合計	104
施設等の整備	6		

7 青葉区への定住意向などについて

1) 青葉区への定住意向



青葉区への定住意向は「今住んでいるところに住み続けたい」が61.7%で6割以上を占めている。次いで「青葉区内のどこかに住み続けたい」が22.3%で高くなっており、青葉区に住み続けたい割合が8割以上を占めている。

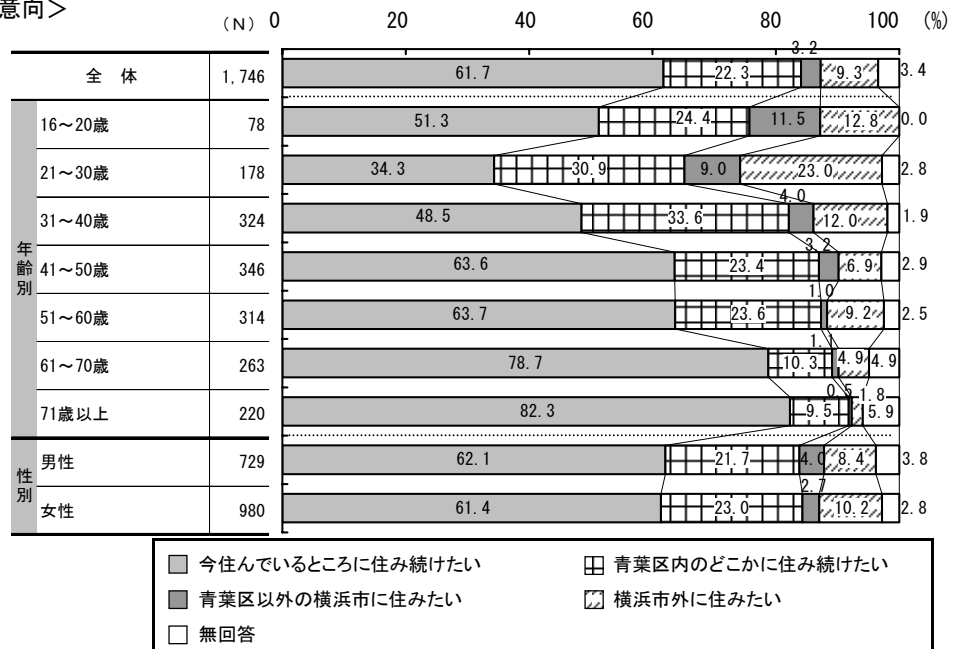
POINT

青葉区への定住意向がある割合は約8割と高い水準である(昨年度調査時とほぼ同率)。

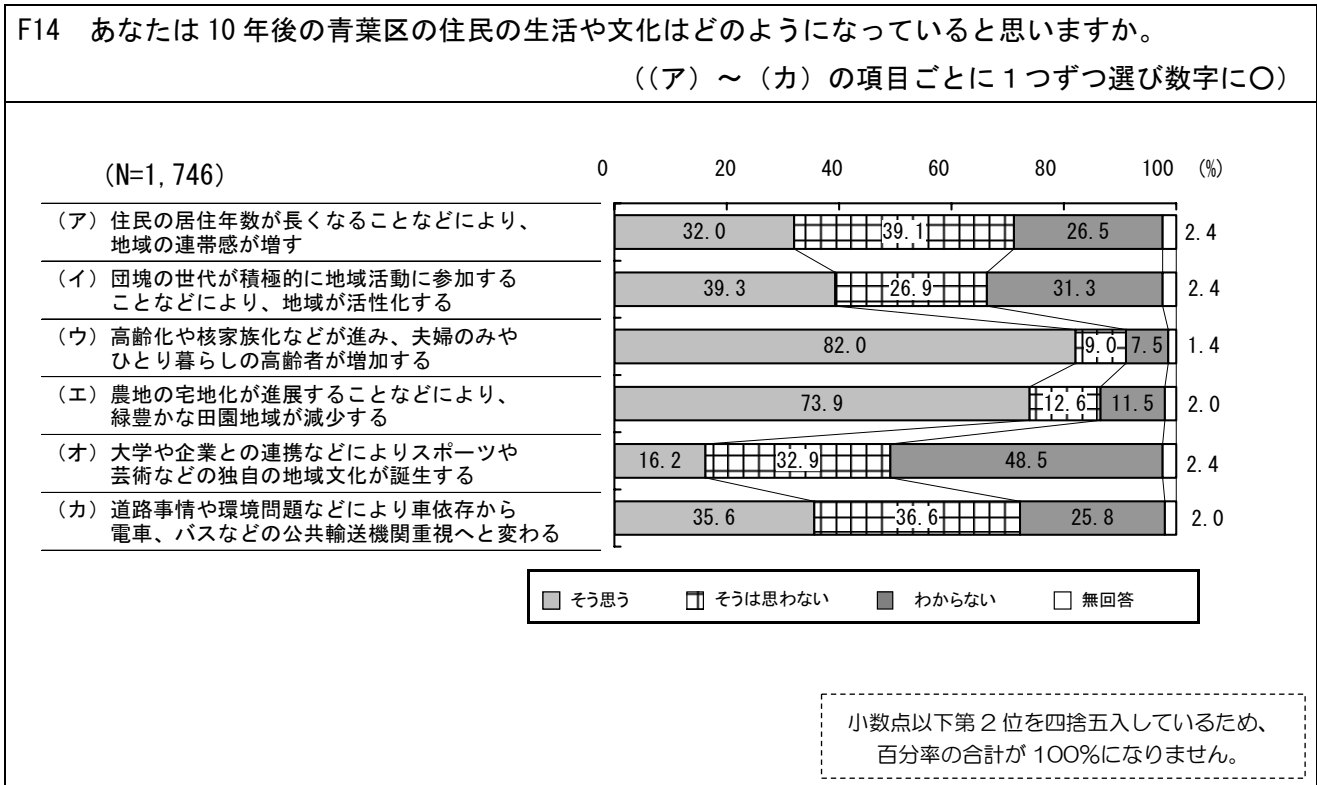
<年齢別・性別：青葉区への定住意向>

年齢別にみると、青葉区に住み続けたい割合は、61歳以上で7割を超えて高く、中でも71歳以上では9割に達して特に高くなっている。最も住み続けたい割合が低い21~30歳でも65.2%となっている。

性別では特に大きな差はみられない。



2) 10 年後の青葉区の生活や文化について



POINT

「高齢化や核家族化などが進み、夫婦のみやひとり暮らしの高齢者が増加する」、「農地の宅地化が進展することなどにより、緑豊かな田園地域が減少する」について、「そう思う」との回答が多い。

一方で、「大学や企業との連携などによりスポーツや芸術などの独自の地域文化が誕生する」については、「そう思う」人は少ない。

10 年後を想定した青葉区は、「そう思う」が『(ウ) 高齢化や核家族化などが進み、夫婦のみやひとり暮らしの高齢者が増加する』で最も高く、82.0%を占め、『(エ) 農地の宅地化が進展することなどにより、緑豊かな田園地域が減少する』においても 73.9%と高くなっている。

一方、「そうは思わない」は『(ア) 住民の居住年数が長くなることなどにより、地域の連帯感が増す』で 39.1%と高くなっている。また、『(オ) 大学や企業との連携などによりスポーツや芸術などの独自の地域文化が誕生する』については、「わからない」が 48.5%と、半数近くを占めている。

8 自由意見

区政運営について聞いたところ、607人の方から1,044件の回答があった。なお、1人で複数の内容を回答している場合には、各項目に分けてカウントしている。

意見の内容別の件数は下表のとおりである。

項目	件数	項目	件数
1. 「交通・道路」について	186件	6. 「防犯・防災」について	63件
・交通について	88件	・防犯（交番・パトロール）について	22件
・道路について	58件	・防犯全般について	16件
・交通マナーについて	20件	・防犯（街灯）について	13件
・駐輪場・駐車場について	20件	・防災について	11件
2. 「環境」について	244件	・防犯（不審者）について	1件
・住宅環境について	61件	7. 「医療」について	23件
・街の環境について	45件	・医療全般について	11件
・自然・緑・河川	43件	・病院について	8件
・環境教育について	42件	・健康診断について	4件
・店舗について	25件	8. 「地域」について	26件
・公園について	22件	・地域交流・地域活動について	12件
・店舗（郵便）について	3件	・ボランティアについて	9件
・街のイメージについて	3件	・自治会について	5件
3. 「ごみ」について	57件	9. 「行政」について	202件
・ごみの収集について	35件	・税金について	46件
・ごみの分別について	22件	・行政窓口・行政サービスについて	42件
4. 「教育・文化」について	121件	・行政の広報・広聴について	40件
・施設について	43件	・行政としての姿勢について	37件
・文化（図書館）について	29件	・目指す青葉区の姿について	22件
・教育全般について	21件	・区民としての姿勢について	4件
・教育（小学校）について	10件	・その他行政について	11件
・文化（イベント）について	9件	10. 「その他」について	5件
・文化全般について	7件		
・教育（中学校）について	2件		
5. 「福祉・健康問題」について	117件		
・福祉（子育て）について	55件		
・福祉（高齢者）について	36件		
・福祉全般について	9件		
・福祉（障害者）について	6件		
・禁煙対策について	6件		
・福祉（障害児）について	3件		
・福祉（生活保護）について	2件		

また、代表的な意見は下記のとおりである。

1. 「交通・道路」について

交通について

- 私の住むところは、横浜市・川崎市・町田市の境目にあり、交通（特にバス）不便で最寄りの駅へ出るのに 30 分以上歩かねばならない。駅へのアクセスとして唯一の公共機関バス（東急、小田急）は 1 日 10 本にも足りない。時間帯によっては 3 時間に 1 本も通らないという不便さで、高齢者は本当に困っている。又、敬老パスを 5,000 円出して買っても、すぐ近くの鶴川駅へ出るのに又お金を払わねばならず、不便で大変困っている。 【女性・71 歳以上】
- 横浜市民でありながら地下鉄の利用、アクセスが悪いため、みなとみらいに行くより都心に出かける方が多い。意識的に横浜市民であることの自覚も薄い。地下鉄があざみ野駅ではなく、たまプラーザ駅まで延長すればもう少し、みなとみらい方面に出掛ける回数が増えると思う。バスなどの公共機関が充実しない限り、不便を強いられ車を使わない生活は期待できない。特にたまプラーザの生活圏に暮らす者として、行政、その他の手続きのための交通手段に不便を感じる。 【女性・51～60 歳】

道路について

- 青葉区は赤ちゃんも高齢者も多い地域なので道路、歩道の段差をなくすバリアフリーをどんどん進めてもらいたいです。 【女性・21～30 歳】

交通マナーについて

- 自転車マナーが悪く、歩行者の安全が守られていないため、改善していくため何らかの手段を行っていただきたい。 【女性・21～30 歳】

駐輪場・駐車場について

- 車、バイクの駐車違反の取り締まりが駅周辺で多い中、駐車場、駐輪場がなさすぎる。（特に 50cc 以上のバイク用駐輪場） 【女性・21～30 歳】
- 駅前の駐輪場の積極的整備を・・・青葉台駅のように広域的な範囲の住民の通勤・通学の拠点となるような駅周辺はやはり一定規模の「駐輪スペース」が必要で、現状ではまだまだ不足している感が否めません。東急スクエア周辺などの空きスペースを有効利用し、有料駐輪場を増やし、放置自転車対策も同時に進めてほしいです。（このたびの三井住友銀行前の道路わきの有料駐輪場化はなかなか良かったと思います） 【男性・31～40 歳】

2. 「環境」について

住宅環境について

- 緑地・農地等を残すことは必要だと思うが、今後は市街化調整区域のあり方について、横浜市は積極的に市街化に向けて取り組んでほしいです。駅まで 15 分で行けるように道路改良やバス路線の見直しなども必要だと思うが、駅周辺の用途地域を調整区域から市街化に変更するような取り組みもした方がよいと思います。また、青葉インターチェンジ付近をもっと開発することで青葉区は更に発展すると思う。 【女性・31～40 歳】
- 青葉区は魅力ある町ですが、最近の田園都市線沿線の高層マンション計画によりだんだん魅力が失せていると思います。都内までの通勤状況のことを思うと、なんらかの対策がない限り、仕事を都内に持つ人にとっては住み続けるのは辛い町になるのではないのでしょうか。 【女性・21～30 歳】

街の環境について

- 人口増加による治安の悪化。
交通渋滞、企業の宅地開発による環境の悪化等近年住環境が良くなっていないと感じています。これらを改善する施策を。 【男性・51～60 歳】

自然・緑・河川について

- 緑豊かな林や畑が造成などで木が倒されていくところを見ると悲しくなります。植樹も必要かも知れ

ませんが、現在ある緑を残すように自然をたくさんそのまま残してほしいと思います。 【女性・61～70歳】

- 東京都内から緑の多い環境の良好な土地に住みたくて移り住んできました。宅地化が進み緑地が減少するのは仕方ない面もありますが、人口減少する社会は明らかなのでこれからは緑地をできるだけ残し、里山を大切にすまちづくりを目指していきたいと願っています。生き物にとって住みやすい環境はすなわち人間にとっても良い環境となるはずですから、行政サイドも緑地保全のための有効な政策を願っています。 【女性・51～60歳】

環境教育について

- 歩きタバコをもっと厳しく取り締まってほしい。
また、バス停で吸殻がたくさん落ちているのを見てとてもマナーが悪いと思う。15周年でグッズを作るなら“STOP路上喫煙”という感じでポケット吸殻入れを配ってもらいたい。 【女性・16～20歳】

店舗について

- もう少し商店街などに力を入れてほしいと思う。コンビニやスーパーに流れていってしまうのは、やはり便利なものもあるけど活気がないからだと思う。せっかくの商店街なのだから、住民のために活用できないもったいない。商店街に活気があれば、自然と街にも活気が出ると思う。 【男性・16～20歳】

公園について

- 公園について。木々を整備して美しく安全で安らげる公園にしてほしいです。木ばかりの公園は夜危険な感じで近寄れません。街灯も少ないです。おしゃれな公園が青葉区には似合うと思うのですが。 【男性・61～70歳】

街のイメージについて

- 便利で閑静な住宅地としてのイメージを定着させる方向が望ましいと思う。それに相応しい商店街づくり、景観、施設を整備してほしい。 【男性・61～70歳】
- 横浜市や青葉区の財政上の問題もあると思われるが、現在住んでいる青葉台地区には利便性の魅力は感じるが、町並みや道路は雑然とし、ゆとりが感じられない。今後益々高齢化が進むことを考えると、恩田川河川敷道路の遊歩道化、大規模な緑化公園等の充実を図り、本当に住みたいと思う、魅力ある街づくりをしていただきたい。 【男性・61～70歳】

3. 「ごみ」について

ごみの収集について

- ごみの収集に関して、今はプラスチック製の容器包装が大変多く（ほとんどの製品についている）、ごみの収集が週に一日というのは少ないと感じている。また、野菜などについてネットや袋を減らすなどの取り組みをもっと積極的に行ってほしい。燃やすごみの収集も現在は週2日、7・8月のみ3日となっているが、6月9月も週3日にしてほしい。温暖化で暑い日が多く、台所のごみの扱いに困る。 【女性・41～50歳】

4. 「教育・文化」について

施設について

- 臨海地区の各地区に比べ、公共・文化が少なく、市民として不公平である。 【男性・71歳以上】
- 小さな子ども連れの方が多いと思うので、児童館など充実してほしい。 【女性・31～40歳】

教育全般について

- 多種多様な企業活動を小・中・高校生に対し公開し夏休み等に活動に参画させることが出来れば素晴らしい、

以上のようにこれからの青葉区を支える若者の育成にも充実した施策がほしい。 【男性・41～50歳】

教育(小学校)について

○小学校の人員不足を感じます。教師の増員が厳しいのなら支援員や学生（教師、心理士等を目指す）サポーターetc 登録制で子ども達に関わっている人員を増やしてほしいです。 【女性・41～50歳】

文化(イベント)について

○青葉区内、町ごとのイベント（祭りのような）をひと月ごとに分けて開催したら、お互いの町への関心と認知度が高くなると思います。（今は、おそらく夏祭りくらいが町ごとのイベントですかね？） 【女性・21～30歳】

文化全般について

- 会社等に勤務していた人にも利用（参加）できるコミュニティ、習い事など行事を増やし情報を流し提供していきたい。 【女性・51～60歳】
- 文化・芸術面での活性化、支援を。川崎や都筑は音楽活動を支援しているように。（例）気楽に安く利用できるホールや練習場所。 【男性・41～50歳】

5. 「福祉」について

福祉(子育て)について

- 子育て中の家庭への支援が充実されつつある中、教育水準の高いこの地域で子どもを大学まで通わせることは大変な負担でした。義務教育中だけでなく高校生、大学生のいる家庭への支援を要望したいと思います。奨学金も利用させていただきましたが、現在本当に教育費が高すぎると実感しております。環境問題等他に考えていかなければいけない大切なことも家計のやりくりで後回しになってしまうのは残念なことです。 【女性・41～50歳】
- 子どもがいる夫婦のお母さんがもっと働きやすくできる環境を作してほしいです。託児所の数や預けられる時間を長くできる等、市や区、民間の会社等が協力し合ってほしいと思います。 【女性・21～30歳】
- 子どもがこれだけ多くいるのに、児童館もないし、自分で情報を探し自分で行動しなければ、どうにもならない子育てでした。もっともっと子どもに、そして若いママに優しい街づくりをお願いします。 【女性・31～40歳】

福祉(高齢者)について

- 問 14 であった平均寿命 1 位であることは喜ばしいことであると同時に、今後想定される高齢化に対して早いうちに真剣に対策に取り組むべきであるとの警鐘とも捉えるべきである。現に高齢の方を街でよく見かけるが、交通量の多い、歩行者用の信号が短いなど決して高齢者に住みよい街ではないことを自覚していただきたい。
逆にこれを利用して高齢者と子どもの交流の機会を増やすことにより双方に良い効果が得られると期待する。 【男性・21～30歳】
- 老親の世話をしていますが、心身ともに大変です。本人も面倒をみている人、両方の精神的サポートを気軽にできる公的な場所があると有難いと思います。長寿要因の数字にとらわれず、もっと今何が必要とされているか・・・区民と目線の合った行政であってほしいと願っています。浮かれることなく、堅実な行政サービスあってこそ、青葉区住民としての誇りを持ちたいものです。 【女性・51～60歳】

禁煙対策について

○神奈川県全体で禁煙場所を増やす。全面禁煙などの方向に向かっていると思われませんが、青葉区だけでも公共の場での全面禁煙など強く進めていただきたいです。（喫茶店、レストラン、駅など） 【女性・31～40歳】

福祉(障害児)について

○私の子どもは自閉症で現在養護学校に通っています。青葉区内でも障害のある子の数は増えるばかり

で養護学校もいっぱい、これからは自分の子どもを行かせたい学校も満杯では入れない状況も出てくるかもしれません。

また、放課後の支援も青葉区にはなく緑区や都筑区にあるような地域活動ホームもあと3年も待たなくてはなりません。その間の支援をもっともっと考えてもらわないと障害のある子とその親は行き場所もなく閉塞感を抱くばかりです。

これからの卒業後の進路や受け皿も心配です。障害者の待機者ゼロを目指すというものの障害者のための働く場所、安心して暮らせる地域、生きがいを感じられるような区政をお願いしたいです。【女性・41～50歳】

6. 「防犯・防災」について

防犯(交番・パトロール)について

○数年前空き巣にやられ、町内でも今なお被害が多い。警察も大変だと思うが、自治会も含めた防犯対策の強化を望む。【男性・71歳以上】

防犯全般について

○結婚を機にこちらに転居してきました。とても魅力的な街で気に入っていますが、これからの治安に不安を感じています。子どももいますし、ニュースでは青葉区での犯罪も増えてきているように思い心配しています。【女性・31～40歳】

○犯罪を防ぐ意味で、住民の視線が届く町並みの整備、植栽も視線が行き届くように工夫する、公園も通りからの視認性を向上する作り方を心がけ、ブラインド空間を作らないようにする。【男性・51～60歳】

防犯(街灯)について

○道路は大変整備されているが、横道に入ると夕方、夜は暗すぎてなんらかの犯罪が起こりやすい状態である。もっと街灯を増やして本当に明るい街にしてほしい。【男性・61～70歳】

防災について

○男女ともこれだけ高齢者が多くなると、災害発生時に逃げ遅れる人も多くなり、大変危機感を持っています。【男性・41～50歳】

7. 「医療」について

医療全般について

○夜間・休日の診療できるところが不足しています。特に青葉区は川崎市と隣接して、川崎市への利便性も高いので2市をまたがった医療情報の充実を望みます。【女性・31～40歳】

病院について

○公立の病院（特に大きな病院）がないのが心細い。（町田市民病院に行くケースが多い、特に緊急や夜間で）夜間診療にて港北までは行けませんでした。【男性・41～50歳】

8. 「地域」について

地域交流・地域活動について

○若者の引きこもりから老人の引きこもりへと変化していくと思われる。特に青葉区の10年後、21年後は『長寿ひきこもり日本一』にならない様な活動が望まれる。地域単位（自治会もしくは別の単位でも可）でのコミュニケーション活性化手段を行政側からも提案することを望む。私の場合は近所のコミュニケーションを第一に、自治会では広すぎて集まる場所も限定されてしまう。【男性・51～60歳】

○共働き、マンションに住んでいることもあり、ご近所づきあいなどがなく、災害時など共同生活を強いられる際に不安がある。地域交流の場を提供していただけるとありがたいです。【女性・21～30歳】

ボランティアについて

- ボランティア活動の参加について 具体的な参加事例、内容についてもっと多くの情報を伝えて「それなら私も参加したい」と言えるような反応を起こすようにしてはどうでしょうか。人や社会のために貢献していくことが喜びとなり、生きがいになると思います。 【男性・61～70 歳】

9. 「行政」について

税金について

- 15 周年記念式典などやるのだったら、その分のお金を弱者に回せるようにしないとイケないと思う。見た目ばかりにお金をかけずにもっと困っている人達に寄り添った区政をしてほしい。 【女性・31～40 歳】
- 横浜市は住民税等の税金が高く、物価も高くその上公共施設が港方面に集中し、青葉区方面にはほとんどない。 【男性・51～60 歳】

行政窓口・行政サービスについて

- 日々の生活の中で困っていることや苦情が簡単に申し入れられるシステムを作ってほしい。 【女性・51～60 歳】
- 青葉区役所が不便なところで、駐車場は混んでいるしなんとかしてほしい。区役所と地域をつなぐ循環バスがあると小さな子どもを持った母親とか、老人とかもっと利用しやすくなると思います。 【女性・51～60 歳】

行政の広報・広聴について

- 区政の情報があまり入ってこない (HP をみているのに)。もっとマメに HP にのせたり、PC を持っていない家庭にも情報が伝わるようにしてほしい。 【女性・31～40 歳】

行政としての姿勢について

- 区政がもっと身近になるようになんらかの工夫が必要ではないでしょうか。広報だけでは不足だと思います。 【女性・61～70 歳】
- 区政と市政の違いが正直に申してよくわからないので内容の相違点 (意見が違うという意味でなく、図書が主要駅で返却できるなどの素晴らしい特徴) と同じ点がわかりやすく理解できる資料なりホームページへの掲載をしてほしいです。青葉区政の特徴をまとめ、「これが青葉区です」のようなものを示されてるのほどこで知ることができるか教えてほしい。 【女性・41～50 歳】
- 最後に、区政を行っている人との交流の場がもっとほしい。私自身、政治に興味があるため、そのような場があれば積極的に参加したい。 【男性・21～30 歳】

目指す青葉区の姿について

- 高齢化社会となっている現在、ご高齢の方がお一人でお住まいになられても安心して暮らしていける社会、青葉区となってほしいです。そして子ども達がコンピューターゲームや進学だけを目的とした勉強をするのではなく、人生一生涯を通して宝となり人格の形成に必要な勉強、人として大切なことを培うことのできる青葉区となってほしいです。 【女性・21～30 歳】
- 質の高い港街文化都市を築いてほしい。国際レベルの音楽祭。経験豊富な企業OB人の知恵の活用。 【男性・51～60 歳】

平成 20 年度 青葉区民意識調査 報告書

発行日 平成 20 年 9 月

発行 青葉区 総務部 区政推進課

〒225-0024 横浜市青葉区市ヶ尾町 31 番地 4

☎ 0 4 5 (9 7 8) 2 2 1 6

FAX 0 4 5 (9 7 8) 2 4 1 0